愛知医科大学学報

本院正面玄関に設置された門松

＝第177号＝

2025.1月

愛知県長久手市岩作雁又１番地１
〒480 -1195

学校法人　愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス
www. aichi-med-u. ac. jp

■ 主 な 目 次 ■

年頭ごあいさつ…… 2
上田龍三名誉教授が日本学士院新会員選定… 7
ながくて４U応援プロジェクト
ふるさと納税開始…… 9
令和７年新年祝賀式挙行…… 11
令和７年度入学試験開始…… 19
令和７年度学年暦のご紹介…… 21
第49回愛知医科大学医大祭開催…… 30
《プロリハ》リハビリテーションの誕生 …… 31
院内助産／助産師外来「るる」開設…… 34

－令和７年　年頭のごあいさつ－

理事長・学長　祖父江　元

皆さま，明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては，お元気で新しい年を迎えられていることと存じます。今年のお正月は，昨年のような能登半島地震や羽田空港の事故はなく，例年のようなお正月になっていることと思います。しかし，昨年から始まった大きな変化として，働き方改革，医療材料費や人件費の高騰，全国的な大学病院の経営困難などが続いており，今年も課題の多い１年になりそうです。

そのような中，現在進行させているミッションを幾つかご紹介するとともに，今後の展望に触れてみたいと思います。

○中期計画・中期目標の設定と実行努力と評価

昨年の４月に中期計画・中期目標2028を設定しました。これは2024年から2028年までの５年間の目標・ミッションになります。内容は，大学のホームページなどに掲載してあり，詳細はご覧いただけるとありがたいと思いますが，その中核は，①財政基盤の確立，②部署別の中期目標の策定と実行・評価，③働き方改革の実質化，④地域医療の革新：循環型医療システム・リハビリ改革・救急体制の実質化，⑤世界を見据えた教育・研究の推進，⑥DX推進による経営改革の六つのイノベーション・ストラテジーです。いずれも重要なミッションで，部局ごとに，あるいは大学全体として年次目標を共有して，PDCAサイクル（Plan，Do，Check，Action）を回しながら最終的に５年目には中期目標として達成を目指すというものです。この中のいくつかは既に始まっていますが，これらを実行するための背景には，患者さんへの思い，社会・地域への貢献，大学への貢献，更には経営に対するコスト感覚の醸成などが重要であることは言うまでもありません。また，これらを考えて置いておくだけではビジョンのままであり，実行することが重要であります。

今回のごあいさつの中では，全体を述べることはできませんので，現在進めていることの一部をご紹介します。

○地域医療への貢献

一つは地域医療への貢献です。いま地域医療で何が困っているのかという問いかけが重要です。それは，超高齢化に伴う患者数の爆発的な増加と疾病構造の変化です。パーキンソン病，認知症，心不全，がん，糖尿病・合併症，慢性関節リウマチ，虚血性血管障害，骨折，腎不全など多くの疾患で患者数の爆発的増加が起こっており，その症状の出方も高齢ではかなり変わってきています。心不全などではoutbreakなどと言われており，入院患者さんが急激に増加しています。高齢者救急の対応，慢性期の再発と進行をどのように抑えるか，また，このような病態をどのように治療するかが重要です。高齢者救急では，TACU（Transitional Acute Care Unit）を利用して，患者さんのトリアージを活性化，また，慢性期には，本院の専門医と地域の総合医が連携して２人主治医のような形で，普段はクリニックに受診しながら，半年から１年に１回程度，病態診断と治療方針などの評価のため本院に受診してもら

うという，言わば患者循環型の診療が重要ではないかと考えています。これは時間軸を含めて患者さんを地域で支えるという考え方であり，地域医療のあり方が大きく変わってきていると思われます。一方で，この流れは医学教育にも影響を与えるように思います。今までは，医学生，初期臨床研修医，専攻医の教育は，主に高度急性期型の病院に集中していましたが，今後は，専門医とともにジェネラリストとしての視点の教育も重要になると思います。本院では，この点も考慮して全科の専攻医を３か月間救命救急科へ配属し，更に内科全科の専攻医を３か月間メディカルセンターへ配属しています。この研修はまだ動き出して２年足らずですが，特に若手の意識が少し変わってきているように感じます。

○リハビリテーションの改革

もう一つは，リハビリテーション改革です。リハビリは急性期から慢性期にかけて種々の疾患について改善が得られるというエビデンスが出てきており，その治療的重要性が再認識されてきています。これまで狭かった本院のリハビリスペースを約３倍に拡張し，セラピストの増員，対象疾患の拡張，分院の回復期リハビリとの連携，更には精神科疾患や認知症へも拡張していきたいと考えています。

一方では，全身的なモニター管理の下，超急性期のリハビリを行うことによって回復のスピードとレベルが大きく変わることが明らかになってきており，回復期リハビリとの連携，地域へのリハビリ連携の点でも重要と考えています。更には，昨年文部科学省から４年制大学の認可を受けた学校法人佑愛学園愛知医療学院大学との連携を進めており，将来的に本学のリハビリテーション学部構想を進めていきたいと考えております。

○財政基盤の確立

「財の独立なくして学の独立なし」という言葉がありますが，令和５年度の私立医科大学の収支状況は約半数がマイナスの収支決算でした。本学もこのグループに含まれています。国立大学の附属病院も同様に約半数が赤字決算で，令和６年度には更に三分の二の大学病院が収支マイナスになると予想されています。これは，コロナ禍における国からの支援が無くなったことが大きいのですが，コロナ後の医療材料費，人件費及び光熱費の高騰などが影響しています。本学は，事業全体の80％が医療収入であり，医療収入の確保が大変重要です。全体を検討しますと，収益率５％が重要なクリティカルポイントになっており，収益率５％を目指すことが今後の経営安定化の重要な指標になると考えます。

既に４年ほど前から財政基盤の確立に向けた各種イノベーションの仕込みを進めています。救急医療体制改革，休床53床の活用，リハビリの拡張と活性化，麻酔科・NP改革，メディカルセンター・眼科クリニックMiRAIの開院，臨床型の若手教授のリクルートなどを進めてきていますが，全体としてこれらの仕込みが効果を発揮するのにはもう少し時間がかかると思います。一方では，即効性の高い種々の病院のアクションプランを進めており，各科責任病床設定，各科診療目標・指標設定，各科へのモニタリング体制，病院長・理事長による各科ヒアリング，各科ラウンド，休日・平日検査体制・リハビリ拡充，医療経費の削減，化学療法室の充実，医師事務・看護補助の拡充などを進めており，今年度４月から９月の上半期で見る限り，病院のドクター・職員の大変な努力があり，好調を維持しています。いずれにしても今後更に長期的な財政基盤の安定化を目指すシステム・意識改革を進める必要があると考えています。また，診療のみでなく教育・研究を行っている大学病院を更に特化した高度先進医療機関として位置付けていこうという動きも出てきており，期待しているところであります。

今回のごあいさつでは，全体の中期目標の概略をご紹介するとともに，事業活動の一部だけを紹介しましたが，皆さま方には今後も継続的なご支援をいただければ大変ありがたいと存じます。今後とも，どうぞよろしくお願い致します。

－成熟した医学部とは－

医学部長　笠 井　謙 次

謹んで新春をお祝い申し上げます。

現在，本学のみならず全国の医学部には，働き方改革，基礎研究活性化や，医師過剰時代にも関わらず改善しない医師偏在問題と入試制度改革などの現実的課題が山積していますが，ここでは特に医学教育に纏わる所感を述べさせていただきます。

全国において今年度の１学年次生から適用された新しい医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和４年度改訂）では，「総合的に患者・生活者をみる姿勢」や「情報・科学技術を活かす能力」が新設されました。前者では全人的医療などが強調され，例えば従来の専門科医師は，ややもすると担当疾患の治療終了までといった疾患中心的視点で患者を捉えがちでしたが，新コア・カリでは，胎児・新生児期から老年期・終末期まで人生を俯瞰しつつ，家族・就労環境などの社会的背景，そして地域社会・社会保障制度や公共政策・地球環境までを踏まえた視点を教えることが意識されています。特に「生活者」の言及では，未病状態を捉えて発症予防に繋げる，あるいは治療後如何に順調な社会復帰を促し健康寿命を延ばすことができるかなどが問われると感じています。更に，新規治療法で生存期間が延びたため出現した新たな病態，合併症もテーマになるでしょう。愛知医科大学メディカルデータサイエンス教育プログラム委員会の橋本貴宏委員長（数学・教授(特任)）を中心に，「愛知医科大学メディカルデータサイエンス教育プログラム」として整備した本学の数理情報教育は，今年度，文部科学省から「数理･データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定されました。今後特に「情報・科学技術を活かす能力」では，ビックデータの利活用や生成AIに加え，診療DXも課題となりましょう。なお，このコア・カリは一部の医学教育専門家が作成したのではなく，厚生労働省立会の下，医療系大学間共用試験実施評価機構（CATO），日本医学教育評価機構（JACME）と共に全国医学部長病院長会議（AJMC），日本医学会，日本医師会，文部科学省などが協働して作成し，パブリックコメントを踏まえ決定したものであることに留意すべきと思います。

こうして見ますと，新コア・カリは単なる「医学生の学修目標」の域を超え，我々大学教員あるいは専門家，研究者自身が現在取り組んでいる課題そのものが列挙されている感があります。もはや医学教育は「専門的な知識技量を備えた教育者が，経験の乏しい学生に完成した体系としての学問を授ける」といった従来の捉え方では困難です。もとより人口減少社会の中で社会保障制度を維持しつつ，医学医療が日進月歩，情報工学は跳躍的進化するなど，これまで人類が経験したことのない時代を生きる次世代（学生）に旧世代（教員）が全てを教え授けることなど不可能です。そのため学生諸君には，「教えを受ける」という受動的な立場ではなく，我々教員と共に学び，共に医療活動，研究活動を行うco-worker，collaboratorとしての意識と基礎能力が求められます。いみじくも令和５年から臨床実習前OSCE・CBTが公的化されました。これら公的化共用試験の評価を経た現５学年次生からは，違法性が阻却され堂々と「診療参加」型臨床実習を行う世代になりました。教員・大学組織は常に進歩し続ける必要があります。学生も精神的に一層成熟，自律（あるいは自立）し共に学び共に診療すること，また医学部とはそうした教職員・学生が集う場所であることが求められます。関係各位からの益々のご理解とご支援を賜りたいと存じます。

－看護学部の新たな取り組みのスタートに向けての抱負－

看護学部長　若 杉　里 実

令和７年１月１日（水・祝）で能登半島地震から１年となりました。能登半島地方の復興はまだまだ道半ばです。地域の方々と支援活動に従事しておられる皆さまに心から敬意を表すとともに，更に復興が進んでいくことを祈念致します。

令和７年の年頭に当たり，一言ごあいさつ申し上げます。皆さまには，日頃より看護学部・看護学研究科の教育・研究活動にご理解とご支援を賜り，厚く御礼申し上げます。本学看護学部は，令和７年度に創立25周年を迎えます。新しい一年に向けての抱負を述べさせていただきます。

令和５年度に一般財団法人日本看護学教育評価機構（JABNE）による看護学教育評価を受審し，JABNEの評価基準において，「適合」との評価結果を受けることができました。その中で，「令和４年度のカリキュラム改訂において，他学部や大学病院との連携を活かし，時代の要請に合った科目設置が行われたこと」，「大学病院看護部と看護学部との連携において看護連携型ユニフィケーション推進事業が展開されていること」，「看護学部附属看護実践研究センター地域連携・支援部門による組織的で活発な地域貢献を行っていること」は，本学の長所・特色として高い評価を受けました。この評価のもと令和７年度は，令和４年度からスタートさせた新カリキュラムが４年目を迎えますので，文部科学省の看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂内容と新カリキュラムとの整合性を検証していきたいと考えております。

これまで，看護学部と本院看護部が長年にわたって築いてきた安定した協力関係を基盤に，看護実践研究センターと看護連携型ユニフィケーション推進事業を展開してきましたが，この度，二つの事業を整理し，発展的に統合することとなりました。「看護職の学びを深化する場，看護職の未来を創造する場，ヘルスケア推進のために人を繋げる場」として看護学部，看護部，地域が有機的に繋がり合うプラットフォームとなり，ユニフィケーション体制の維持・強化を図り，互いに学び合い助け合う中で，医療・看護を取り巻く状況変化に柔軟に対応するヘルスケアを共創していくことを目的とし，看護学部の組織として「ヘルスケア共創センター」を令和７年４月１日（火）に設置する準備を進めていきます。

本学大学院看護学研究科は，令和６年８月29日（木）に，文部科学省から博士後期課程の「認可」をいただきました。令和７年４月から看護学博士のPh.Dと，看護実践博士であるDNPの二つのコースを同時に開設致します。教育研究分野としては，「基盤看護学」，「成育・療養支援看護学」，「包括・実践看護学」の三つの分野があります。DNPコースについては，日本では聖路加国際大学，北里大学，国際医療福祉大学に続き四つ目の大学となり，中部・関西地方では初めて開設することとなります。学部から大学院まで看護職としての学びを継続し，キャリアアップに繋げることができる大学として，更なる発展ができるよう努めて参ります。

皆さまのご健康と益々のご活躍を心から祈念して，年頭のごあいさつとさせていただきます。

謹賀新年
－新たな年を迎えるに当たり，ごあいさつ申し上げます。－

病院長　道 勇　　学

謹んで初春のお慶びを申し上げます。

皆さまにおかれましては，日頃より愛知医科大学並びに病院に対してご厚情を賜わり，先ずもって御礼申し上げます。

小生，昨年の新年ごあいさつの末尾に「2024年度は愛知医大病院の変革がいよいよ本格始動します。」と書かせていただきましたが，本院は正にそのとおりの歩みを進めてきております。令和５年度から着手してきました休床53床の復活稼働は，病棟改築及びTACU開設を経て令和６年７月のSCU正式稼働を以て完遂しました。これを待っていたかのように救急搬入が急増して，毎月，前年度比100台以上の増加傾向がみられ，今年度は年間8,000台を大きく上回る救急車の受け入れが予想されます。私見ながら，このような救急医療の現状は，高齢救急患者さんにしばしば潜む複雑な病態・病状鑑別の必要性，あるいは医療事故防止・医療安全遵守の観点に鑑み，旧来の一次から二次，そして三次救急へと向かう救急患者のトリアージ体制の考え方がもはや通用しなくなり，先ずは超急性期・急性期病院での診療トリアージが求められていることの表れではないかと考えています。これを裏付けるように，病床稼働率は当初の懸念に反して上昇し，92～95％超を安定的に維持できています。また，TACUの効果的活用はEICU及びHCUにおける本来の急性期重症患者診療の集約，徹底をもたらし，加えてSCUの100％稼働でより手厚い脳卒中急性期診療が可能となっています。

一方，働き方改革につきましては，令和６年４月から臨床系教員は変形労働制に移行し，臨床現場に則した勤務形態となった結果，医師の時間外労働短縮と給与増加の両立がバランスよく達成できております。また，タスクシェア，タスクシフトなどの対策も順調に進められており，医師のみならず看護師やメディカルスタッフなど，広く各職種業務の負担軽減に注力しています。このように，顕著な診療拡大施策と働き方改革推進の歯車を絶妙に噛み合わせて病院経営の基盤強化に繋ぐことができているのは，全職員が病院の理念を忘れず，より強靭な団結の下決して留まることなく着実な歩みを進めてくれているからだと考えています。病院長として，心より感謝している次第です。

本院が掲げる最も重要な達成目標は，言うまでもなく医療の質と安全性の継続的向上，及び病院経営の発展的維持です。前者については，裏打ちされた大学病院としての総合力を以て今後も引き続き持続的かつ高度な医療安全管理体制の下で，更なる高度最先端医療技術開発及び総合的臨床力普遍化に繋げてくれることでしょう。また後者については，これが本学発展の根幹であることは必定であり，これからもより極め細やかでダイナミックな病院経営戦略を推進していきたいと考えています。リハビリテーション医療の飛躍的拡大，地域医療連携体制の更なる強化など，まだまだ「愛知医大病院の変革」は続きます。

以上，本院の主な近況についてご紹介致しましたが，最後に大学・病院関係者の方々並びに学報をお読みの皆さまのご健勝と，愛知医科大学，愛知医科大学病院の益々の発展・成長を祈念して，年頭のごあいさつとさせていただきます。

上田龍三名誉教授が日本学士院新会員として選定されました

本学の上田龍三名誉教授（名古屋大学大学院医学系研究科特任教授）【写真】が，令和６年12月12日（木）開催の日本学士院第1,184回総会において，日本学士院新会員（第２部自然科学部門，第７分科(医学・薬学・歯学)）として選定されました。

同院は，学術の発達に寄与するための必要な事業を行うことを目的として文部科学省に設置された，学術上功績顕著な科学者を優遇するための機関です。会員は，学術の功績が優れた科学者から選定されるとともに，終身任期の国家公務員特別職の身分が付与されます。

上田名誉教授の専門は，内科学・臨床腫瘍学・血液腫瘍学であり，主要な学術上の業績としましては，成人T細胞白血病・リンパ腫（ATLL）に対する画期的な日本初の抗がん抗体医薬の開発研究に成功したのみならず，長年に亘り，がんの基礎研究成果を臨床に導入する「がんトランスレーショナル・リサーチ（TR）」の発展に貢献されました。ATLLは昭和52年に日本で発見された治療困難な血液のがんであり，ATLLの病態，発症原因，感染経路などの研究は，卓越した日本の研究者により次々と全貌が明らかにされましたが，治療法の開発研究は皆無でした。上田名誉教授は，ATLLの細胞表面にあるCCR4分子がATLLの特異的マーカー分子であり，予後不良因子であることを見出し，同分子を標的とした抗体医薬の開発に着手されました。前臨床研究を踏まえ，自ら臨床開発の統括責任医師としてFirst in Human（FIH）の治療から主導し，臨床的有用性を証明するとともに平成24年には薬事承認され，ATLL患者の第一治療選択薬となりました。この一連の取り組みは，抗体作製，前臨床研究，治験，薬事承認，コンパニオン診断薬開発に至る産学協同研究の新たな方向性を示しました。

新会員に選定されました上田名誉教授からは,「医学分野でのトランスレーショナル・リサーチ（TR）の重要性を評価していただき嬉しく思います。愛知医科大学でも10年に亘りTR研究を継続できたことに感謝致しております。今後も日本発のTR研究やPhysician Scientist（研究医）の育成のお手伝いができればと思っております。」との感想がありました。

献血ご協力ありがとうございました

令和７年１月15日（水）大学本館１階南側ロビーにおいて，愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施されました。職員を始め多くの方にご協力いただき，本学における冬の献血では過去最多の受付数となりました。

せっかく献血をお申し出いただいたのに体調によりご協力いただけなかった方々は，ご自愛いただき，次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いします。

冬の団体献血（結果）

・献血受付数	・61名
・献血できた方	・56名 （400mL・50名）
・献血できなかった方	・５名

次回は令和７年６月頃に予定していますので，ご協力をよろしくお願いします。

役員・評議員の改選
―理事長に祖父江元 理事が再任―

令和７年１月14日開催の理事会・評議員会において，令和７年１月27日付け任期満了に伴う役員及び評議員の改選が行われ，令和７年１月28日付けで以下の方々が就任されました。

任期は，令和７年１月28日から令和９年度定時評議員会終結の時までです。（非改選は除く。）

また，令和７年１月28日開催の理事会において，祖父江元 理事が理事長に選任されました。

【理事】

選任区分	氏　　名
学長	祖父江　元（非改選）
評議員のうちから評議員会において選任	伊藤恭彦，岩船徹雄，笠井謙次，道勇　学， 羽生田正行，羽根田雅巳，若杉里実
学識経験者のうちから理事会において選任	齋藤　勉，髙柳友子，長谷川好規， 福澤嘉孝，真能秀久，横尾和久

※島田孝一氏については，寄附行為第８条第３項の規定に従い，後任理事が選任されるまでの間，なおその職務を行うこととなります。

【監事】

選任区分	氏　　名
法人の理事，職員又は評議員以外の者のうちから評議員会の同意を得て理事長が選任	林　清博（非改選），山口悦郎

【評議員】

選任区分	氏　　名
法人の職員で理事会で推薦された者のうちから評議員会において選任	天野哲也，泉　雅之，伊藤恭彦，井上里恵， 岩船徹雄，笠井謙次，佐藤元彦，道勇　学， 羽生田正行，羽根田雅巳，細川好孝，若杉里実
この法人の設置する学校を卒業した者で，年齢25年以上のもののうちから理事会において選任	福澤嘉孝，藤澤恵児，早稲田勝久
学識経験者のうちから理事会において選任	浅井健次，伊藤健吾，加藤宏泰，加藤雅通， 金森俊輔，齋藤　勉，祖父江　元，高安正和， 髙柳友子，長谷川好規，早川真人，真能秀久， 八島妙子，山田晴生，山根則夫，横尾和久

退 任 理 事：内海　眞，島田孝一，柵木充明

退 任 監 事：岡田　忠

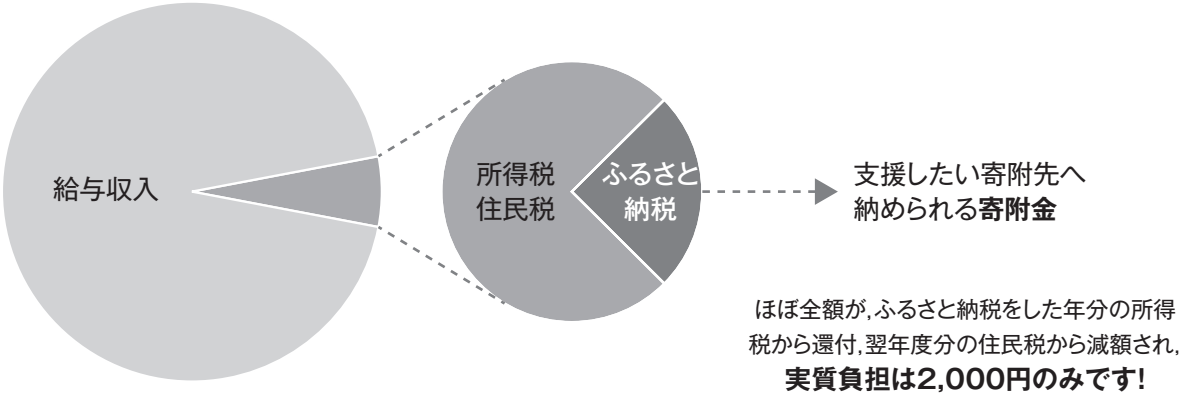
退任評議員：内海　眞，木下　登，島田孝一，柵木充明

「ながくて4U応援プロジェクト」ふるさと納税開始

長久手市では「ふるさと納税（寄附）制度」を活用し，市内の４大学を応援する「ながくて4U応援プロジェクト」が立ち上げられ，令和６年10月25日（金）から本学への寄附が開始されました。本学は「いのちを救い，健康を守り，地域を支える。」未来の医療人の育成を中心に大学の教育・研究・医療活動の改革・充実に活用するため，本プロジェクトに参画しています。

長久手市との記者発表
（左から祖父江元 学長，佐藤有美市長）

ふるさと納税（寄附）とは?▶ 育ててくれたふるさと，お世話になった場所を納税先に選ぶことで，支払う税金の中から寄附できる制度です。寄附金控除として，2,000円を超える部分については全額が所得税や住民税から控除されるため（上限額あり），寄附者の実質負担は2,000円です。



ほぼ全額が，ふるさと納税をした年分の所得税から還付，翌年度分の住民税から減額され，
実質負担は2,000円のみです!

ふるさと納税（寄附）をするために，
新たに寄附金を用意する必要はありません!
通常の寄附との大きな違いです。

ふるさと納税（寄附）をした場合の減税額は!▶

給与収入500万円の人が〔共働き子1人（大学生）〕
ふるさと納税（寄附）の控除上限額44,000円まで寄附した場合
所得税･住民税の控除により，
42,000円減税

長久手市に在住の方も寄附することが可能です。
長久手市からの返礼品はありませんが，金額に応じて本学からの御礼を用意しています。

●お申込み・お問い合わせ　ご不明点がありましたら，お気軽にお問い合わせください。

学校法人愛知医科大学 法人本部 資金・出納室　〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1
TEL：0561-63-1062（受付時間8：30 ～ 17：15 土日祝日を除く）　sikin@aichi-med-u.ac.jp

教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業募金のご協力のお願い

学校法人 愛知医科大学
理事長　**祖父江 元**

愛知医科大学は，昭和46年に設置認可を受け，翌昭和47年４月に医学部の第１回生を迎え入れました。その後，大学院医学研究科，看護学部，大学院看護学研究科を開設し，現在は２学部・２大学院体制となっています。

本学は「社会から評価され，選ばれる医科大学」を基本方針とし，学是「具眼考究」の理念の下，教育･研究･診療の各分野で勇往邁進に取り組んで参りました。

今後，更に社会から評価され，選ばれる医療人の育成，安心・安全の信頼できる先進医療の提供，地域とともに歩む医療の推進，新たな医学・医療の開拓，将来へ向けたキャリアパスの描ける場の提供など，時代の変化に合わせた，あるいは先取りする柔軟な変革に取り組んで参ります。

より良い大学，より良い病院となるため，募金に対しまして格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

募金要項

①　募金目的

教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業

②　募金１口の金額

個人：１万円　法人：５万円
（できるだけ多数口のご支援をお願いします）

③　税制優遇措置

個人：税額控除制度・所得控除制度のいずれかを選択等
法人：受配者指定寄付金制度等

寄附の方法

＜書面（郵送）＞

・本学HPから必要な書類をダウンロード又は本学から書類を送付します。
・寄附申込後，別途お振込みなどをお願い致します。

＜インターネット＞

・本学HPから直接お申込みいただき，次のようなお支払いができます。

顕彰について

①　広報誌・ホームページ等での寄附者の御芳名（個人名，法人名）
②　個人10万円以上（累計），法人50万円以上（累計）寄附者御芳名（プレート）
③　個人100万円以上（累計）寄附者御芳名（タイル）

プレート芳名板
（大学本館１階ロビー）

タイル芳名板
（中央棟エントランスウェイ西側）

お問い合わせ

学校法人愛知医科大学
資金・出納室
☎ 0561-63-1062
E-mail：sikin@aichi-med-u.ac.jp

インターネットからでも寄附ができます。

愛知医大　募金

令和７年新年祝賀式挙行

令和７年１月６日（月）午後３時から大学本館たちばなホールにおいて，新年祝賀式が行われました。【写真】

祝賀式では，祖父江元 理事長から新年のあいさつがあった後，本学の未来に繋げるビジョンとして，新リハビリテーションセンター，診療収入改善による財政基盤安定化及び中期計画の三つのトピックスについて，お話されました。「新リハビリテーションセンターについては，次世代型全身モニタリング超高度リハシステムの導入により，高度リハ治療を進化させ，回復効果の向上を図ります。また，本学の恒常的・合理的な医療の確立と医療収入安定化の実現に向け，財政基盤確立のためのイノベーションの仕込みや医療収入増アクションプランの取り組みを行っています。更に，中期計画として，現在進行中のミッションに加え，社会から評価され選ばれる医科大学であり続けることを目指し，新たなイノベーション・ストラテジーを展開していきます。このような取り組みを通し，愛知医大・病院が抱えている課題を解決し，更なる発展に繋げていきたいと考えています。」とお話がありました。

役員・名誉教授・教授懇親会開催

令和６年12月19日（木）午後７時から名古屋東急ホテルにおいて，役員・名誉教授・教授懇親会が開催されました。【写真】お忙しい中，ご参加いただいた59名の先生方は，久しぶりにお顔を合わせられたこともあって会話が弾み，大変有意義な懇親会となりました。

初めに祖父江元 理事長から，長久手市と本学のふるさと納税制度，医療収入増アクションプラン及び新リハビリテーションセンターの三つのトピックスについて，本学の現状と展望を踏まえたあいさつがあり，稲福繁名誉教授の音頭で乾杯が行われ会が始まりました。

懇親会では，新たに就任された名誉教授及び教授，役員の紹介がありました。歓談の時間を挟みつつ会が進み，笠井謙次医学部長及び若杉里実看護学部長，道勇学病院長から大学・病院の近況が報告されました。最後に，羽生田正行理事からあいさつがあり，会は盛会裡に終了しました。

令和６年度永年勤続者表彰

令和６年11月22日（金），大学本館たちばなホールにおいて令和６年度永年勤続者表彰式が行われました。

祖父江元 理事長から表彰状が授与され，被表彰者へのお祝いとお礼の言葉とともに,「長年にわたって貢献していただき，本当にありがたく思います。この後も10年，20年，30年と次のターンがくるので，更なる頑張りを期待しています。本当におめでとうございます。」とあいさつがありました。被表彰者を代表して，施設・建設室の星野州泰室長から謝辞が述べられ，表彰式は終了しました。永年勤続者表彰者は，次のとおりです。

謝辞を述べる星野室長

30年勤続者（７名）

大畑めぐみ　押上　幸紀　坂本　学　鈴木　由美　塚本　由紀　星野　州泰
山森　美幸

20年勤続者（６名）

池田　幸代　宇野　美香　岸　明日香　菅井　良典　竹島　雅子　渡邉　大輔

10年勤続者（50名）

秋山さつき　足立　和規　伊井　仁美　伊藤　友一　伊藤　秀明　稲本　千晶
上沼菜那子　海老　正秀　大澤　高陽　大西加珠季　大西　翔太　大橋　早紀
奥村　彰久　桂川　貴晃　加納　章由　倉橋　宏和　黒澤　昌洋　小林　美佳
櫻木　亜美　貞丸　加奈　佐野　力　柴田　美優　柴田　祐一　白柳　葵
高見　昭良　髙村　祥子　瀧川未沙稀　滝本　直道　武内　恒成　津灘　航平
内藤　宗和　仲上　麻友　長崎由紀子　新村　潤　早川　里美　林　純子
藤井　千裕　藤澤　恵児　前田　佳代　松野　愛　松原　彩子　茂木　幹雄
森山　峰義　山口　剛広　山口奈緒子　山﨑　綾香　山﨑　義隆　山田　竜也
山本　敬子　山本　優

（63名：五十音順・敬称略）※氏名掲載は希望者のみ。表彰状に記載されている氏名としています。

訃　報

成瀬 隆吉名誉教授 御逝去

令和６年11月21日（木）に成瀬隆吉名誉教授（旧外科学第１講座）がご逝去されました。享年89歳でした。

成瀬先生は昭和37年３月に名古屋大学医学部医学科を卒業し，昭和47年７月に愛知医科大学医学部外科学第１講座の講師として就任，平成８年４月に教授へ昇任され，同講座の創設・発展に大きく貢献されました。

平成10年４月には教務部次長，平成11年４月から２年間にわたり教務部長を務められ，医師国家試験合格率の向上に大きく貢献するなど学生の教育指導に尽力されました。また，平成９年４月から２年間にわたり動物実験センター長を務められたほか，総務委員会，施設委員会，倫理委員会，入学試験委員会，予算委員会，動物実験センター運営委員会など，多数の各種委員を歴任し，本学の教育・診療・研究の充実，発展に貢献されました。一方，平成10年１月から３年間にわたり学校法人愛知医科大学の評議員として，学校法人の運営にも大きく貢献されました。

先生は，永年にわたって外科学の内分泌外科分野の教育・研究に努め，甲状腺・乳癌を始め各種副腎腫瘍に対する診断及び治療法の確立や，各疾患における病態・ホルモン産生機構の解明に多大な貢献をされました。特に，副腎皮質ホルモン及び手術侵襲に関する研究と内分泌外科分野の研究に力を入れ，副腎皮質ホルモンの動態に基づいて適切な周術期管理を確立するとともに乳癌縮小手術の臨床的意義やバセドウ氏病に対する適切な外科的治療とその臨床病理学的意義の解明にも貢献されました。

更に，第13回日本内分泌外科学会会長，第255回東海外科学会会長，良性乳腺疾患研究会，甲状腺外科研究会などの世話人を務められ，日本外科学会を始めとする数多くの学会において評議員・会員として尽力し，我が国における外科学の向上発展に多大な貢献をされました。

ここに哀悼の意を表し，謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

病院外来平面駐車場にEV充電スタンド設置

愛知医科大学病院では，2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みの一環として，令和６年12月17日（火）から外来平面駐車場において，電気自動車（EV）の充電スタンドが３基設置され，充電サービスを開始しました。

今回設置された中部電力ミライズ株式会社のEV充電スタンド「treev（ツリーブ）」は，出力6kwの200V普通充電器です。専用のtreevアプリを利用して，ステーション検索，クーポンの取得，充電開始及び決済を行うことができます。利用方法や充電料金等の詳細につきましては，treevアプリ及びtreev公式サイト（https://treev.jp/customer.html）をご参照ください。

電気自動車ユーザーの皆さまにおかれましては，是非本院のEV充電スタンドをご利用ください。

EV充電スタンド「treev」

treevアプリ
ダウンロード

※充電スタンドをご利用の場合は，充電料金のほか，駐車料金が必要となります。

愛知医科大学公開講座（長久手市連携事業）

令和６年10月21日（月）午後２時から，長久手市保健センター３階会議室において，長久手市との連携事業として公開講座が開催されました。【写真】

今年度は「スマホから目を守る」と題して，眼科の山本敬子助教（医員助教）が講演されました。

スマートフォンを長時間使用することによる目への影響や，すぐに実践できる対処法などのお話がありました。参加者からは，「スマホの使用時間や部屋の明るさに気を付けたい。」などの感想があり，大変有意義な講座となりました。

愛知医科大学公開講座（尾張旭市連携事業）

令和６年11月29日（金）午後２時から，スカイワードあさひ６階ひまわりホールにおいて，尾張旭市との連携事業として公開講座が開催されました。【写真】

今年度は，内科学講座（糖尿病内科）の近藤正樹講師が，「病気知らずの健康体へ，今すぐ始められる食と運動習慣」と題し，バランスの良い食事が人により異なることや，糖尿病，高血圧，肥満症を運動により防ぐことが大切であることなどについて講演されました。参加者からは「食生活の改善に活用できそう。」，「食事と運動に，積極的に気を付けたい。」などの感想があり，大変盛況な講座となりました。

愛知医科大学公開講座（瀬戸市連携事業）

令和６年12月21日（土）午後２時から，瀬戸市やすらぎ会館５階大集会室において，瀬戸市との連携事業として公開講座が開催されました。【写真】

今年度は，「乳がん診療の最前線～早期発見や治療につながるブレスト・アウェアネス（乳房を意識した生活習慣）のすすめ～」と題し，外科学講座（乳腺・内分泌外科）の中野正吾教授が講演されました。

乳がん検診の受診と日常生活の中で乳房を意識した生活を送ることの大切さ，次世代の乳がん検診などについてお話があり，参加者からは「検診の有効性などを知ることができた。」，「分かりやすかった。もっとたくさん講義を聞きたかった。」などの感想があり，大変盛況な講座となりました。

令和６年度介護施設等防災リーダー養成研修開催

令和３年度以降，本学の災害医療研究センターが，愛知県委託事業「介護施設等防災リーダー養成研修事業」に採択されており，令和６年度においても介護施設等の職員を対象とした「防災リーダー養成研修」が10回にわたり開催されました。

今年度は，日々の業務で多忙な介護施設等の職員が少しでも多く研修に参加できるよう，事前にWeb形式の座学を聴講してもらい，当日は机上演習を中心とした集合研修が実施されました。

令和６年１月に発生した令和６年能登半島地震は記憶に新しく，本事業では，近年頻発している大規模地震などの激甚災害に対して，要配慮者を預かる介護施設等がどのような被害を受けるか，対策として何が必要かを考え，災害時に介護施設の業務を継続するための「防災リーダー」を養成しています。

講義内では実際の介護施設の被災経験も共有し，愛知県の被害予測を踏まえた机上演習を実施することで，各施設が作成したBCP（事業継続計画）をより現実的で実効性のあるものに改正することを目指しています。

研修の様子

研修後のアンケートでは，「災害対応をされているドクターと話す貴重な機会になった。」，「集合研修で色々な施設の方の意見を直接聞くことができ，とても勉強になった。」など，多くの参加者から好評をいただき，大変有意義な研修となりました。

令和６年度愛知県災害医療コーディネート研修開催

令和６年６月30日（日）及び令和７年１月12日（日）に，日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院の日赤愛知災害管理センター棟において，愛知医科大学，愛知県及び愛知県医師会の三者共催による令和６年度愛知県災害医療コーディネート研修が開催されました。

本事業は，愛知県の災害時における医療調整機能の強化を図ることを目的として，地域における災害時医療チームの派遣調整，患者の受け入れや搬送の調整を担当する医師等を対象に，必要な知識の習得と県共通の認識を共有するために本学災害医療研究センターが中心となり，平成27年度から実施されています。

研修には県内の医師会，保健所，災害拠点病院，看護協会から，医師のみならず，コメディカルや事務職員など，幅広い職種の方々が２日間で107名参加されました。

机上演習の様子

災害医療研究センターでは，南海トラフ地震や各種災害における犠牲者を軽減するため，今後も災害医療の教育・研究を積極的に進めて参ります。

第23回近畿・中部地区大学等知的財産連絡会議開催

令和６年11月１日（金）午後１時から大学本館第１会議室において，本学を幹事校とする第23回近畿・中部地区大学等知的財産連絡会議が開催されました。

本会議は，近畿・中部地区において理系学部を擁する大学の教職員が一堂に会し，知的財産管理及び産学連携等の業務に関する現状や課題を共有することで，各大学の施策及び日常業務に役立てることを目的としています。

初めに，佐藤元彦副学長（特命担当）による開会あいさつがあり，全体会として独立行政法人工業所有権情報・研修館（INPIT）知財戦略部の平出高久知財戦略エキスパートから「INPITの取り組み」についてご講演いただきました。

全体会終了後には，アメニティ棟３階において「知財管理に関する諸課題」と「産学官連携活動に関する諸課題」の２グループに分かれた分科会が行われ，

開会あいさつをする佐藤副学長

各大学における取り組み及び諸問題への対応方法が活発に討議され，共通業務の確認と独自の取り組みを共有することで，有意義な内容となりました。

最後に，次期幹事校となる大阪医科薬科大学の担当者によるあいさつがあり，本学知財委員会の武内恒成委員長による閉会のあいさつで会議を終了しました。

研究創出支援センター第３回，第４回「戦略的研究推進セミナー」開催

研究創出支援センター主催による第３回，第４回「戦略的研究推進セミナー」が，それぞれ，令和６年11月20日（水）午後５時から大学本館203講義室において，12月13日（金）午後５時から大学本館302講義室において開催されました。

第３回は本センターの服部聡子准教授を講師として，「疾患モデルマウスの行動表現型解析」をテーマに，疾患モデルマウスの生体としての機能評価及び治療薬の評価などに有用な行動解析について，実際の医学研究への利用を視野に入れながら解説いただきました。

また，第４回は本センターの土本純助教（分子医科学研究所）から，「質量分析の基礎と本学での活用事例」をテーマに，高分解能質量分析計ZenoTOF 7600を用いたプロテオーム解析の実例紹介，同解析の現状について報告がありました。更に，日本プロテオーム学会の松本雅記会長（新潟大学医歯学系システム生化学分野，大学院医歯学総合研究科オミクス生物学分野・教授）をお迎えし，「質量分析計を用いたプロテオーム解析の基礎と応用」と題しご講演いただきました。質量分析技術の進展によりプロテオーム解析が飛躍的に高性能化し，医学・生命科学における重要性が増している最先端の解析技術とその応用の紹介や，所属される新潟大学における先進的な共通機器管理運営についての解説も行われました。

参加者は，学内研究者を始め多数に及び，いずれも講演後には聴講者から質問が多数寄せられるなど，活発な議論が行われました。今後も研究創出支援センターでは，研究活性化に資する様々なセミナー等を開催することを予定していますので，ぜひご参加ください。

令和６年度愛知医科大学SDへの取り組み

本学では「SD（スタッフディベロップメント）：教職員に研修の機会を提供する等の取り組み」を積極的に行っております。

ハラスメント防止講演会開催

令和６年11月５日（火）午後４時から，大学本館たちばなホールにおいて，「ハラスメントのない働きやすい職場を目指して」をテーマとしたハラスメント防止講演会が開催されました。愛知県人権擁護委員連合会の小山富夫講師委員長を講師にお迎えし，教職員33名が受講しました。【写真】

講演会では，「自分の心の使い方」が人権意識に影響するとの説明があり，ハラスメント事例及び防止策，良い職場と人間関係の築き方について，具体例を交えながら解説いただきました。

講演会後のアンケートでは，「改めて自分自身の言動，行為を注意しようと思った。」，「職場や家庭内でのコミュニケーションを大切にしていきたい。」などの感想がありました。

新規採用事務職員半年フォロー研修実施

令和６年11月19日（火）午後１時45分から大学本館701会議室において，令和６年度新規採用事務職員を対象に，配属後半年を一つの区切りとした半年フォロー研修が実施されました。

今年度は「キャリア」と「グループでの課題解決演習」をテーマとして，グループワーク及び全体での意見共有を行いました。今年度に入職した事務職員同士の仲を深め，部署を越えた人間関係づくりを行うとともに，入職から約半年間を振り返る機会となりました。

受講者からは，「自身の成長を再確認し，今後のキャリアを具体的に描くきっかけとなった。」，「研修で学んだことを活かし，今後部署内で何かを提案する際にはメリット・デメリットなど必要な整理をしてから，分かりやすく説明したい。」などの感想がありました。

グループワークの様子

また，実務に直結するOAスキル研修の要望があり，自身にとって必要なスキルについても考える機会となりました。

情報セキュリティ講演会開催

令和６年12月３日（火）午後５時から大学本館５階マルチメディア教室において，情報セキュリティに関する意識向上・啓発活動の一環として，全教職員及び学生を対象に情報セキュリティ講演会が開催されました。昨年度と同様に，今年度も現地及びZoomによるオンラインのハイブリッド形式で開催され，62名が参加しました。

講師には，愛知県警察本部警備総務課サイバー攻撃対策隊の方をお迎えし，「サイバー攻撃の現状と対策」と題して，最新の情報セキュリティ動向について，事例等を交えてご講演いただきました。

講演の最後には，中部管区警察局愛知県情報通信部情報技術解析課の方から，デモンストレーション用の不正ソフトを用いた実演も行われ，不正ソフトの侵入経路は不注意によるダウンロードや，中古スマホの購入によるものなどがあると説明があり，出席者は身近な脅威及び情報セキュリティの重要性について，熱心に聞き入っていました。

本学では，引き続き情報基盤の整備を実施するとともに，情報漏洩が発生しないよう，教職員及び学生への意識向上，啓発活動に努め，情報セキュリティ対策に一層積極的に取り組んで参ります。

事務職員IT研修開催

令和６年12月13日（金）午後３時から，大学本館711特別講義室において，「AIの現在と活用」をテーマとした事務職員IT研修が開催され，49名が受講しました。【写真】

昨年は事務系管理職を対象として同じテーマの研修を開催しましたが，今回は広く事務職員を対象とした内容に見直して開催されました。AI及び大規模言語モデルの概要，業務での活用例だけでなく，事前アンケート結果を踏まえたChatGPTの実装例やQ&Aも加えて，より実践的な研修となりました。

受講者からは，「漠然としたAIに対する知識だったが，ある程度はっきり理解することができた。」，

「ITということだけで少し敬遠しがちな項目であるが，実事例や実際の想定を見ることで身近に感じ，運用してみたいと思った。」などの感想がありました。

図書の企画展示　アドバンス・ケア・プランニング

総合学術情報センター（図書館部門）では，「人生会議の日」に当たる令和６年11月30日（土）から令和７年３月31日（月）まで，「ACP（アドバンス・ケア・プランニング：意思決定支援）」に関する図書の企画展示が行われています。

本展示は，看護部入退院支援センターの小林美和副部長が「令和６年度第４回愛知医科大学病院地域医療連携研修会・勉強会，第５回看護機能連携ネットワーク実務検討会」で図書を展示されたことを機に企画されました。ACPやACPを実践する上で大切な患者さんとのコミュニケーションに係る図書，ACPの愛称である「人生会議」に係るWebサイトの情報等と，小林副部長のコメントを展示しています。

厚生労働省は，人生会議を「もしものときのために，あなたが望む医療やケアについて前もって考え，家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い，共有する取組のこと」として普及・啓発活動を行っています。教職員及び学生の皆さんには，本展示をご覧の上で，人生会議をする機会としていただけることを期待します。

小林副部長作成のPOP付き展示

図書館部門では今後も，教職員との協働による図書展示を通じて，教育・研究・診療に貢献して参ります。

参考URL

厚生労働省　「人生会議」してみませんか
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_02783.html
総合学術情報センター　企画展示リスト
https://www.opac.aichi-med-u.ac.jp/opac/category/2

令和７年度入学試験開始

今年もいよいよ入試シーズンの幕開けとなりました。

本学においても医学部，看護学部，大学院の入試が行われています。いずれの試験においても，受験生の合格への意気込みが感じられました。

≪医 学 部≫

●学校推薦型選抜

＜公募制＞

①試　験　日　　令和６年11月23日（土・祝）
②志 願 者 数　　85名
③受 験 者 数　　84名
④合格者発表　　令和６年12月５日（木）
⑤合 格 者 数　　20名

●国際バカロレア選抜

①試　験　日　　令和６年11月23日（土・祝）
②志 願 者 数　　３名
③受 験 者 数　　３名
④合格者発表　　令和６年12月５日（木）
⑤合 格 者 数　　３名

●一般選抜

＜第１次試験＞

①試　験　日　　令和７年１月21日（火）
②志 願 者 数　　2,179名
③受 験 者 数　　2,117名
④第２次試験受験資格者発表
　　令和７年１月30日（木）
⑤第２次試験受験資格者数
　　459名

＜第２次試験＞

①試　験　日　　令和７年２月５日（水）・６日（木）
②合格者発表　　令和７年２月13日（木）

●大学入学共通テスト利用選抜

＜第１次試験＞

①試　験　日　　令和７年１月18日（土）・19日（日）
②第２次試験受験資格者発表
　　令和７年２月13日（木）

＜第２次試験＞

①試　験　日　　令和７年２月20日（木）
②合格者発表　　令和７年２月27日（木）

●学校推薦型選抜＜愛知県地域特別枠Ａ方式＞

①試　験　日　　令和６年11月23日（土・祝）
②志 願 者 数　　20名
③受 験 者 数　　20名
④合格者発表　　令和６年12月５日（木）
⑤合 格 者 数　　７名

●大学入学共通テスト利用選抜＜愛知県地域特別枠Ｂ方式＞

＜第１次試験＞

①試　験　日　　令和７年１月18日（土）・19日（日）
②第２次試験受験資格者発表
　　令和７年３月４日（火）

＜第２次試験＞

①試　験　日　　令和７年３月10日（月）
②合格者発表　　令和７年３月13日（木）

≪看護学部≫

●学校推薦型選抜

＜指定校制＞

①試　験　日　　令和６年11月９日（土）
②志 願 者 数　　19名
③受 験 者 数　　19名
④合格者発表　　令和６年11月19日（火）
⑤合 格 者 数　　19名

＜公募制＞

①試　験　日　　令和６年11月９日（土）
②志 願 者 数　　78名
③受 験 者 数　　78名
④合格者発表　　令和６年11月19日（火）
⑤合 格 者 数　　22名

●社会人等特別選抜

①試　験　日　　令和６年11月９日（土）
②志 願 者 数　　１名
③受 験 者 数　　１名
④合格者発表　　令和６年11月19日（火）
⑤合 格 者 数　　０名

●一般選抜

①試　験　日　　令和７年１月26日（日）
②志 願 者 数　　456名
③受 験 者 数　　445名
④合格者発表　　令和７年２月５日（水）

●大学入学共通テスト併用型選抜

①試　験　日　　一般選抜及び大学入学共通テスト日程
②合格者発表　　令和７年２月19日（水）

●大学入学共通テスト利用選抜（A方式・B方式）

①試　験　日　　令和７年１月18日（土）・19（日）
②合格者発表　　令和７年２月19日（水）

≪大学院医学研究科≫

●第２次募集

1　募集人員
　基礎医学系，臨床医学系各専攻合わせて17名
2　出願期間
　令和６年12月２日（月）から
　令和６年12月16日（月）まで【必着】
3　入学者選考方法
　入学者は，学力試験及び出身大学の調査書を総合して選考する。
　①試験日　令和７年１月31日（金）
　②試験項目及び時間

時　間	試験項目
10：00 ～ 12：00	外国語（英語） 〔辞書使用可，電子辞書不可〕 ※　外国人志願者の外国語試験は，英語一カ国語のみによる試験又は英語と日本語の二カ国語による試験のいずれかを選択する。
13：00 ～	面接試問（志望する専攻分野に関連する専門試験を含む）

4　合格者発表
　令和７年２月28日（金）
5　入学手続期間
　令和７年３月３日（月）から
　令和７年３月10日（月）まで
6　出願書類提出先
　愛知医科大学医学部教務課大学院係

≪大学院看護学研究科≫

●修士課程

第２次募集実施なし。

●博士後期課程

1　募集人員　　４名
2　出願期間
　令和７年１月10日（金）から
　令和７年１月21日（火）まで【消印有効】
3　入学者選抜方法
　入学者の選抜は，学力試験，小論文，面接及び出願書類等を総合して判定する。
　①試験日　令和７年２月６日（木）
　②試験科目及び時間等

時　間	試験項目
9：00 ～ 10：30	英語〔辞書・電子辞書（通信機能がないものに限る）使用可〕
11：00 ～ 12：30	小論文
13：30 ～ 15：00	専門科目（志願する専攻領域に関する内容）
15：20 ～	面接（研究計画書に基づく）

4　合格者発表　　令和７年２月13日（木）
5　入学手続期間
　令和７年２月14日（金）から
　令和７年２月21日（金）まで
6　出願書類提出先
　愛知医科大学看護学部教学課大学院係

令和７年度学年暦のご紹介

令和７年度の医学部及び看護学部の主な学年暦を紹介します。

医　学　部	
４月１日	５・６学年次前学期授業開始
４月６日	入学式
4月7日･4月10日～4月11日	新入生ガイダンス
４月８日～４月９日	新入生研修
４月７日	４学年次前学期授業開始
４月８日	２・３学年次定期健康診断
４月14日	１～３学年次前学期授業開始
４月18日	１・４学年次学生定期健康診断
５月９日	５・６学年次総合試験A
５月９日	５・６学年次学生定期健康診断
５月12日	解剖慰霊祭
５月12日～５月16日	１学年次早期体験実習1a（ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ実習）
５月26日～５月30日	１学年次早期体験実習1b（看護体験実習）
７月12日	６学年次共用試験臨床実習後OSCE
７月14日～７月16日	４学年次定期試験
７月14日～８月31日	６学年次夏季休業
７月18日～７月25日	４学年次地域医療早期体験実習
７月22日～８月17日	５学年次夏季休業
７月22日～７月25日	２学年次定期試験
７月22日～８月１日	１学年次定期試験
７月23日～７月25日	３学年次定期試験
７月28日～８月１日	２学年次外来案内実習
７月28日～８月24日	３学年次夏季休業
７月28日～８月17日	４学年次夏季休業
８月４日～８月31日	１・２学年次夏季休業
８月21日	４学年次共用試験CBT
８月25日	３学年次後学期授業開始
８月25日～９月５日	３学年次地域包括ケア実習
８月30日～８月31日	４学年次共用試験臨床実習前OSCE
９月１日	１・２・５学年次後学期授業開始
９月26日	４学年次後学期授業開始
10月６日	６学年次後学期授業開始
10月９日～10月10日	５・６学年次総合試験B
10月11日	４学年次白衣式
10月16日	１～３学年次防災訓練
10月20日～10月21日	１学年次早期体験実習１c（臨床科見学実習）
11月１日～11月２日	医大祭
11月17日～11月25日	２学年次チーム医療実習
11月26日～12月２日	２学年次地域社会医学実習
12月８日～12月12日， 12月15日～12月19日	１・２学年次定期試験
12月15日～12月17日	３学年次定期試験
12月22日～１月４日	１～６学年次冬季休業
１月５日	１・２学年次総合試験
１月17日	４・５学年次総合試験C
１月29日	１学年次定期試験
３月２日～３月31日	１～３学年次春季休業
３月７日	卒業証書・学位記授与式
３月９日～３月31日	６学年次春季休業
３月16日～３月31日	４・５学年次春季休業

看　護　学　部	
４月２日	４学年次前学期授業開始
４月６日	入学式
４月７日～４月11日	新入生ガイダンス・新入生研修
４月７日	２・３学年次前学期授業開始
４月８日	１・４学年次学生定期健康診断
４月14日	１学年次前学期授業開始
４月18日	２・３学年次学生定期健康診断
５月９日	４学年次定期試験
６月14日	２学年次キャンドルセレモニー
６月24日～６月27日	２学年次定期試験
７月28日～８月１日	３学年次定期試験
８月４日～８月８日	１学年次定期試験
８月４日～９月７日	２学年次夏季休業
８月４日～９月15日	３学年次夏季休業
８月４日～８月27日	４学年次夏季休業
８月12日～９月15日	１学年次夏季休業
８月28日	４学年次後学期授業開始
９月８日	２学年次後学期授業開始
９月16日	１・３学年次後学期授業開始
10月16日	総合防災訓練
11月１日・11月２日	医大祭
12月22日～１月５日	１～３学年次冬季休業
12月23日～１月５日	４学年次冬季休業
１月20日～１月21日	３学年次定期試験
１月26日～１月30日	１学年次定期試験
２月２日～２月６日	２学年次定期試験
２月２日～３月31日	１学年次春季休業
２月９日～３月31日	２学年次春季休業
２月24日～３月31日	３学年次春季休業
３月７日	卒業証書・学位記授与式
３月９日～３月31日	４学年次春季休業

医学教育者のためのワークショップ開催

今年度の医学教育者のためのワークショップ（学内ワークショップ）は，令和６年12月20日（金）・21日（土）にシミュレーションセンターにおいて開催されました。テーマは「人間形成と創造性の啓発を図る一貫性のある教育をめざして」とし，新たに赴任・昇任した教員を中心に参加いただきました。

このワークショップの目的は，本学の医学教育の目標を再認識し，建学の精神を基に，どのような医学教育が必要とされているのかを議論することです。１日目は，「現在の愛知医科大学の教育の課題」について議論し，コンピテンス・コンピテンシーの学生による自己評価結果を共有し，到達度の低い項目について検討しました。近年の医学教育の流れ（早稲田勝久先生）や数理・データサイエンス・AI教育（橋本貴宏先生）について，情報共有が行われました。

２日目は，「ジョイントセッションの構築（神谷英紀先生）」，「上手い教育のための七つのポイント（伴信太郎先生）」についてグループ議論が行われ，学修支援の現状（河合聖子先生），教授法の共有（山口奈緒子先生），シミュレーションセンターの活用（森下啓明先生），最近の学生像（宮本淳先生）について情報を共有しました。

グループワーク後の発表

また，本年度は，３名の外部講師をお招きし，高村昭輝先生（富山大学医学教育学）には，「difficult teaching encounter」として，指導困難・学習困難な場面でどう対処するか，杉浦真由美先生（北海道大学大学院教育推進機構）・濵田千枝美先生（産業医科大学医学教育改革推進センター）には，「インストラクショナルデザイン」として，授業の設計についてのグループワークが行われました。いずれのセッションでも多くの質疑応答があり，充実した内容となりました。

令和６年度第２回大学院医学研究科FD開催

本学では，平成28年度から大学院医学研究科FD（ファカルティ・ディベロップメント）を開催しており，令和６年11月11日（月）午後５時30分から大学本館301講義室において，今年度の第２回目が開催されました。

今回は，講師として岐阜大学大学院医学系研究科脳神経内科学分野の下畑享良教授をお招きし，「難病の倫理的・法的・社会的課題（ELSI）」をテーマとしてご講演いただきました。

当日は，大学院医学研究科の多くの担当教員が参加し，今後の研究・教育の質の向上に繋がるものとなりました。医学研究科では，引き続きFDを開催することで，更に授業内容・方法を改善し向上させて参ります。

国際交流

シンガポール国立大学看護学部教員招聘

看護学部・看護学研究科では，令和６年11月20日（水）から22日（金）までの日程で，学術交流協定締結校のシンガポール国立大学ヨン・ルー・リン医学部アリス・リー看護学科（シンガポール共和国）のZhou Wentao先生を招聘し，相互の交流を図りました。同大学は世界大学ランキングQSにおいて，アジア第１位，世界第８位と世界的なトップ校として教育・研究をリードする大学であり，看護学教育においては本研究科と同じく，APNs（高度実践看護師）教育を行っていることから，学術協定（MOA）を令和３年に締結し，交流して参りました。

Zhou Wentao先生は，同大学院研究科長であり，先生自身もNP（ナースプラクティショナー）として，脳神経疾患や認知症の看護・研究・指導を行っていることから，日本の認知症ケアや高齢者医療の見学を希望され，関連部署にご協力をいただきました。本院の見学では，高度救命救急センターとしての医療システムに関心を持たれたほか，リハビリテーション室や認知症カフェの取り組みの説明に熱心に耳を傾けていました。

２日目に開催された看護学研究科学生との国際交流セッションでは，３名の学生が取り組んでいる研究について英語でプレゼンテーションが行われました。シンガポールの看護・医療事情を踏まえた助言をいただくとともに，同じような看護実践課題について一緒に研究をしていくことの提案がなされ，学生にとって貴重な経験となりました。

また，午後には「Advanced Practice Nursing in Singapore : Present and Future」と題した特別講演が行われました。シンガポールにおいて，高度実践看護師（APNs）がどのような教育を受けて発展し，今後何が求められているかといった視点について説明がなされ，看護を追求し，発展していくことの必要性や，テクノロジーとの融合といった国を超えて共感する強いメッセージに多くの参加者が刺激を受けました。

学長表敬訪問

国際交流セッション記念撮影

短い滞在期間ではありましたが，日本との相違など多くのディスカッションの機会が得られ，同大学との国際交流の進展についても確認し合う充実した招聘となりました。

シンガポール国立大学とは，本年度から学部生の短期留学プログラムを開始することとなり，令和７年３月に看護学部学生４名と看護学研究科学生１名の訪問が予定されています。また，来年度には，同大学からの短期留学の受け入れを計画しています。

看護連携型ユニフィケーション推進事業
令和６年度ヘルスアセスメント技術チェック実施

令和６年11月7日（木）午後１時から看護学部棟N205及びN301講義室において，令和３年度に開始された看護連携型ユニフィケーション推進事業の一環として，看護学部１学年次生を対象としたヘルスアセスメント技術チェックが実施されました。この技術チェックは，初めての病棟実習の前にバイタルサインズ測定を確実に行えるようになることを目指しています。当日は，看護部の臨地実習指導担当者24名の参加がありました。

学生は緊張した表情で技術チェックに臨んでおり，終了後に指導者からフィードバックを受け，臨床でのフィジカルアセスメントの実際を学ぶことができました。学生にとっては臨床看護師のフィードバックを受けることで，自己の技術に自信を持てるとともに，現状の課題を明確にすることができる機会となりました。また，実習前に実際の臨床をイメージすることができ，大学で学習したことは全て臨床で役に立つことを理解しました。一方，臨地実習指導担当者は学習段階や学生の特徴を把握することができ，自身の指導方法を振り返るきっかけとなりました。

技術チェックの様子

今後も看護学部と看護部が協同し，看護学部生に対する教育内容の質向上を目指した教育計画を実施していきます。

看護連携型ユニフィケーション推進事業
令和６年度卒業前研修「静脈血採血」実施

令和６年11月29日（金）午後１時から看護学部棟N205講義室において，令和３年度から開始された看護連携型ユニフィケーション推進事業の一環として，看護学部４学年次生を対象に静脈血採血の卒業前研修（講義・演習）が看護学部・看護部共同で実施され，53名の学生が参加しました。この卒業前研修は，継続教育の充実に重点を充てた教育計画の一部であり，今年で４回目となります。臨床看護師からは新人教育担当者19名が参加し，学生の指導に当たりました。

研修では事例を用いて，実際の手順や看護師の臨床判断に着目し，患者さんの観察やリーダー看護師への報告までを採血の一連の流れとして実施しました。研修の中では，新人教育担当者から臨床での経験に基づいた説明とフィードバックが行われました。

学生からは，「臨床での経験・実際に基づいた具体的な説明を聞くことができた。」，「就職前に学修しておいた方が良いことが明確になった。」などの感想があり，卒業前に新人教育担当者から助言を得られる貴重な機会となりました。また，新人教育担当者にとっては，学生が抱える不安や知りたい内容を知ることができ，新人教育でも学生への指導と同様に一つひとつ丁寧に教える必要性を再認識する機会となりました。

卒業前研修の様子

看護学部進路懇談会開催

令和６年12月23日（月）午前９時からC棟C202講義室において，３学年次生を対象とする看護学部進路懇談会が開催されました。

この企画は，履歴書書き方講座応用編，卒業生による体験談発表，懇談会で構成されており，履歴書書き方講座応用編では，前回行われた履歴書書き方講座基礎編を踏まえて履歴書の完成度を高めました。

卒業生による体験談発表では，看護師，保健師，助産師として活躍する卒業生４名に，「就職・進学先を決定した動機やエピソード，現在の看護実践の状況，仕事を含めた生活など」についてリレー方式でお話しいただきました。

懇談会では，卒業生に職種別の懇談室へ移動いただき，３学年次生は自分が希望する職種の卒業生から様々なアドバイスを受けることができました。

開催後に行ったアンケートでは，「履歴書を書くに当たり，自己分析をする良い機会になった。」，「卒業生へ直接質問することができ，分からないことを解決することができた。」，「就職活動へのモチベーションが高められた。」などの意見が寄せられました。

履歴書書き方講座応用編

懇談会の様子

看護学部就職支援講座開催

令和７年１月６日（月）午前９時30分からC棟C202講義室において，２学年次生を対象とする就職支援講座が開催されました。

学生委員会の青山恵美委員長（感染看護学・准教授）から本講座の趣旨について説明があり，続いてナース専科から講師をお招きして，現在の就職活動の傾向や自分に合った就職先の選び方，必要なマナー及び心構えについてお話しいただきました。また，あいさつ，お辞儀，着席の仕方などの基本的な所作について，実践を通じて確認しました。

講座後に行ったアンケートでは，「就職先を選ぶために大切なことやマナーを学ぶことができた。」，「就職活動について漠然と考えていたが，いつからすべきか，具体的に何をすべきかを理解できた。」，「就職活動に必要な情報や所作，言葉などを学ぶことができたため，習慣的に身に付けていきたい。」などの意見が寄せられ，これから就職活動を控える学生にとって，有意義な時間となりました。

基本的な所作を実践

看護実践研究センター　地域連携・支援部門
令和６年度長久手市市内一斉防災訓練へ参加

令和６年11月17日（日）午前９時から長久手市市内一斉防災訓練が行われ，本学看護実践研究センター地域連携・支援部門は，市が洞小学校区での訓練に参加しました。訓練会場の一つである長久手市立市が洞小学校体育館では，自治会，民生委員，まちづくり協議会及び障がい者施設の方々など総勢60名が参加しました。

本部門では，学生ボランティアが中心となり，訓練参加者の健康観察，食料備蓄のローリングストックと非常用トイレ凝固剤の活用法について紹介をしました。

市役所職員による避難所開設具（簡易トイレ，簡易ベッド，パーテーション）の紹介の後，体育館のトイレが断水した想定で凝固剤を用いながら非常用簡易トイレの使い方を説明しました。

ローリングストックについて紹介する様子

地域住民の方々との積極的な交流を行う中で，防災に関する知識を提供することができ，災害への備えを自分事として考えるきっかけ作りができました。

看護実践研究センター　地域連携・支援部門
「共ステサバイバルHINANJYO体験」への参画

令和６年12月24日（火）午前10時から南小校区共生ステーションにおいて，親子防災活動サークル「子づれ備災クラブ」主催のイベント「共ステサバイバルHINANJYO体験」が開催され，本学看護実践研究センター地域連携・支援部門及び学生ボランティアが参画しました。

本イベントには，長久手市役所職員，長久手市内の市民活動団体，防災士など，子どもから高齢者まで幅広い年代から95名の参加がありました。防災講演会及び避難所トイレの紹介が行われる中，本学からは看護学部の学生ボランティアが中心となり，ローリングストックを題材とした自作カードゲームや防災ゲーム（家まですごろく），避難所居住スペース再現コーナー（段ボールベッド等）の説明を行いました。参加者からは，「日ごろの備えの必要性を改めて感じた。」などの感想がありました。

ローリングストックを題材とした自作カードゲーム

本部門では，今後も多様な団体と協働交流する機会を通じて，学生の参画と学びを促進しながら，地域のニーズに即した健康支援活動を行って参ります。

看護実践研究センター キャリア支援部門 特別セミナー開催

令和６年11月30日（土）午後１時半から，愛知医科大学看護学部の３名の講師による特別セミナー「大規模災害時に活動するために：自身の身を守り看護実践を可能とする備えとは」がオンラインで開催され，県内外から84名の参加がありました。

当日は，公衆衛生看護学の二村純子講師から「能登半島地震における被災地支援の実際～看護・福祉チームの活動から～」，臨床実践看護学の黒澤昌洋准教授から「能登半島地震における被災地支援－災害支援に活かす看護の力－」，地域・在宅看護学の佐々木裕子准教授から「災害支援時に看護の力を発揮するために生活者としての備えと要配慮者への対策」について，先生方の災害支援の経験を踏まえた具体的なお話があり，あっという間の90分でした。

参加者からは，「実際の活動の話を聞けたので，どうしたら良いかリアルに考えることができた。」，「日々の看護が災害時にも大切であることや，どう活かすべきか学ぶことができた。」などの意見があり，災害支援時の看護について実践的に学ぶことができました。

右から黒澤准教授，佐々木准教授，二村講師

医学部学生表彰（大会優勝）

令和７年１月31日（金）午後４時45分から大学本館役員会議室２において，他の模範となる学生の表彰が行われ，医学部４学年次生の奥田知宏さん及び３学年次生の佐野陽菜さんに対し，祖父江元 学長から表彰状と記念品が授与されました。

奥田さんは，令和６年８月５日（月）から18日（日）まで開催された「第76回西日本医科学生総合体育大会（西医体）」の陸上競技男子砲丸投げで優勝し，昨年に続き２連覇を果たしました。

また，佐野さんは，令和６年８月７日（水）から９日（金）まで開催された「第36回全日本医科学生アーチェリー競技大会」のハーフ女子で優勝しました。

祖父江学長（前列中央）との記念撮影
（佐野さん(前列左)，奥田さん(前列右)）

今後も表彰される学生が続くことを期待します。

ソフトテニス部が令和６年秋季東海医歯薬ソフトテニス大会優勝

令和６年11月16日（土）･17日（日）に開催された「令和６年秋季東海医歯薬ソフトテニス大会（男子団体の部）」において，本学のソフトテニス部が優勝しました。

決勝では和歌山県立医科大学と対戦し，接戦の末３－２で見事に勝利を収めました。素晴らしい成果を挙げたソフトテニス部の皆さんを心よりお祝い致します。

ソフトテニス部に限らず，他の部活動においても学生による今後の活躍を期待しています。

優勝したソフトテニス部の皆さん

合気道部部員３名が初段取得

令和６年11月20日（水），合気道部に所属する医学部３学年次生の林花音さん，２学年次生の寺島千尋さん及び看護学部２学年次生の富樫玲奈さんが，公益財団法人合気会の初段を取得しました。初段は，壱級取得後70日以上稽古した者のうち，徒手技法の審査に合格した者に与えられる段級であり，本学の学生が取得するのは稀なことです。

部を代表して医学部３学年次生の牛田京芳さん（部長）からは，「試合で相手に勝つことが目的ではなく，稽古を通じて心身を鍛えることが合気道です。現在，合気道部は10名の女性部員が活動しており，週に１度，合気道有段者である医療法人福友会の職員の方々からご指導いただいています。１年半真剣に取り組んだことで，全くの初心者でも初段を取得することができました。また，神経の走行箇所を考えながら技を極めることで解剖学の復習にもなります。学年途中での入部者も大歓迎ですので，興味がある学生はぜひ一度見学に来てみてください。」とのコメントがありました。

左から寺島さん，林さん

技を極める様子

＜活動日＞

月・水曜日：授業後に自主練習

金曜日：午後６時～７時30分に指導者との練習

＜活動場所＞

６号館（体育館）武道場

地域イベントに学生ボランティアサークルHIAMUが参加

令和６年10月26日（土）に，瀬戸市・尾張旭市近郊の医療ケアを必要とする子どもと家族が楽しめるイベント「第11回もーやっこジュニアの広場」が瀬戸蔵で開催され，本学の学生ボランティアサークルHIAMUが参加しました。

このイベントは，瀬戸旭医師会を始め，瀬戸市の柊訪問看護ステーション及び近隣等の在宅ケア事業所，本学の学生ボランティアサークルHIAMUや中部大学生が中心となって，普段外出が難しい医療が必要な子どもたちやその家族が一緒に楽しみを分かち合える場を作り，小児の在宅医療ケアを学ぶ機会を設けることを目的としてスタートし，今回で11回目の開催となりました。

本学からは，地域・在宅看護学の佐々木裕子准教授を始め，本学医学部卒業生の都築侑介医師とHIAMUの学生12名が運営スタッフとして参加しました。学生が中心となって意見やアイデアを出し合い，子どもたちやその家族に楽しんでもらうことができるようにイベントの準備を進めてきました。今回は，子どもたちや兄弟姉妹が楽しめるよう，粘土やスライムで遊ぶコーナー，バイオリンの伴奏に合わせて歌を歌ったり鈴を鳴らしたり音楽を楽しむコーナー，ボッチャをするコーナーを運営しました。

HIAMU副代表を務める医学部３学年次生の宮地紗菜さんからは，「初めてこのイベントに参加しましたが，参加者全員に楽しんでいただけて良い会になったと思います。医療的ケアが必要な子どもたちについては授業で習いましたが，実際に関わる機会がありませんでした。子どもたちが楽しそうに音楽を聴いていたり，医療スタッフの方から『こんなに楽しそうにしているのは見たことがない。』と仰っていただけたりして，イベントを企画して良かったと思いました。このような機会を与えてくださった皆さまに感謝し，医師になってからもこの経験を活かしていきたいと思います。」との感想がありました。

粘土やスライムで遊ぶコーナー

音楽を楽しむコーナー

ボッチャをするコーナー

第49回愛知医科大学医大祭開催

令和６年11月２日（土）・３日（日・祝）の２日間にかけて第49回医大祭が開催されました。

今年の医大祭では，学生，職員，地域の方々とのより活発な交流，発展を願い，「Spark」というテーマの下，様々な企画が行われました。毎年好評のリサイクルマーケットや芸能人を招いたお笑いショーに加え，e-sports大会，クイズ大会など，幅広い層が楽しめるイベントが用意され，盛況となりました。

また，横断幕やのぼりなど，会場内の装飾にも力が込められており，テーマに相応しい盛り上がりとなりました。

開催初日は天候に恵まれませんでしたが，両日とも地域住民を始め多数の方に足を運んでいただきました。誠にありがとうございました。

【イベント概要】

☆　期間中開催
- 模擬店（16店舗）
- 医学ラボ

☆　11月２日（土）
- お笑いショー
- e-sports大会
- 献血
- 野外ステージ（軽音ライブ，のど自慢大会，クイズ大会）
- 球技大会（バレーボール）

☆　11月３日（日・祝）
- リサイクルマーケット
- e-sports大会
- 野外ステージ（軽音ライブ，有志企画，ビンゴ大会）
- 球技大会（ソフトボール，サッカー）
- ラグビーエキシビジョンマッチ
- クラブ対抗リレー

医大祭に寄せて

実行委員長　医学部３学年次生　伊藤 向輝

令和６年11月２日（土），３日（日・祝）に第49回医大祭が開催されました。

今年の医大祭テーマは「Spark」でした。Sparkには「活気」,「元気」などの意味があります。学生間，学生と教職員間，そして大学周辺の地域の方々とより活発な交流，発展を願いこのテーマにしました。模擬店，献血，野外ステージといった既存の企画を見直すとともに，芸能人を招いたお笑いショーを開催し，リサイクルマーケットの出店位置を変え，地域の人と学生との関わりを増やそうと努力しました。また，今回からは広報・装飾にもより一層力を入れようとパンフレット及びポスターのクオリティを上げ，横断幕や細かい装飾にも手を抜かず，実行委員会で取り組みました。

１日目は悪天候に見舞われて客足も遠のき，かなりの痛手になりましたが，２日目は天気に恵まれて，１日目の雨を忘れさせるような活気に満ち溢れていたと思います。新たな試みの中で，見直すべき課題にもぶつかりました。その課題を解決し，現状を刷新することで医大祭はもっともっと，盛り上がることができると思います。来年度の医大祭50周年に向けて，引き継ぎ作業を行い，様々な事態に対処できるように礎を築き，愛知医科大学医大祭がSparkし続けることを祈っています。

大盛況の模擬店

最後になりますが，今年の医大祭は学生や学生課の方々に加え，医学部後援会，同窓会を始めとする多方面の方々からご支援を賜り，無事成功を収めることができました。

この場をお借りして心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

次世代型リハビリテーション診療拠点《プロリハ》リハビリテーションの誕生

リハビリテーション医学講座・教授　尾川 貴洋

《プロリハ》リハビリテーション

令和７年１月23日（木）付けで，「Rehabilitation Breakthrough, Beyond Limitation」をテーマに，新たなリハビリテーション医療の拠点として「《プロリハ》リハビリテーション」が開設され，同日に開設式典が挙行されました。

《プロリハ》とは，適切な医学的管理下で，医学的知識と技術的に習熟したリハビリテーション専門スタッフが行う，積極的リハビリテーション医療「Physiatrist and Registered therapist Operating Rehabilitation（PRO Reha）」のことを言い，私たちが目指す次世代のリハビリテーション医療の理念を具現化する施設として名付けました。

大学病院のリハビリテーション診療に今後求められるのは，超早期リハビリテーションや重症患者に対する積極的リハビリテーション治療です。これらを安全でより効果的に実施するためには，リハビリテーション科医師，理学療法士，作業療法士，言語聴覚士の高度な知識と技術が必要です。私たちは「スタッフ教育」を最も重視しており，この教育によってチーム全体の専門性を向上させ，「患者さん第一」の理念を実践する力を高めて参ります。また，その効果をより発揮するための施設環境も必要です。

《プロリハ》は，次世代型全身モニタリングシステムを活用した最先端のリハビリテーション施設であり，スタッフの高度な技術と知識を最大限に発揮できる設備を整えました。この施設によって患者さん一人ひとりの状態を正確に把握し，安全でより効果的なリハビリテーション治療を提供することが可能となりました。

このように施設と教育が一体となって機能することで，リハビリテーション医療の質が大きく向上し，スタッフの技術も確実に磨かれていきます。《プロリハ》の開設は，スタッフ教育を基盤に，その効果を一層強化するための場として大きな役割を果たします。この挑戦には，多くの関係者の皆さまからのご協力があり，実現させることができました。改めて，心より感謝申し上げます。

《プロリハ》リハビリテーション

開設記念式典でのテープカット

私たちは今後も「患者さんを良くする医療」を追求し続けます。《プロリハ》が次世代型リハビリテーション医療の拠点となり，多くの方々に希望を届けられる施設となるよう，スタッフ一丸となり取り組んで参ります。今後とも，皆さまの温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

医療法第25条の規定に基づく病院立入検査等実施

令和６年11月１日（金），医療法第25条の規定に基づく本院立入検査及び精神保健福祉法の規定に基づく精神科病院実地指導・審査が実施されました。

これらの検査等は毎年実施されるものですが，いずれの検査等においても重大な指導事項はありませんでした。数点の指摘があった事項については，既に改善のための取り組みを始めており，早急な解消に努めて参ります。

立入検査を受ける様子

＜立入検査等＞

・医療法第25条第３項の規定に基づく立入検査（厚生労働省・東海北陸厚生局）

・医療法第25条第１項の規定に基づく立入検査（愛知県・瀬戸保健所）

・精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第38条の６の規定に基づく実地指導及び実地審査（愛知県・瀬戸保健所）

学外有識者と診療部長・医局長・外来医長との懇談会開催

令和７年１月29日（水）大学本館711特別講義室において，医師事務補助体制の整備及び医師の働き方改革に向け，前浜松医科大学医学部附属病院教授の小林利彦先生と本院の診療部長，医局長，外来医長との懇談会が開催されました。

医師の働き方改革を推進する中，医師の業務負担軽減及び労働時間削減のためには，医師でなくてもできる事務作業をドクターズクラーク（医師事務作業補助者）にタスクシフトすることがポイントとされています。働き方改革に対応していくため，この分野の第一人者である小林先生を講師にお招きし，「ドクターズクラークの有効活用」をテーマとしてディスカッションが実施されました。

当日は，主に内科系と外科系で２回に分け少人数グループでのディスカッションとしたことで，教員から忌憚ない意見を交換することができ，ドクターズクラークの活用において非常に参考になる懇談会となりました。今後も医師の働き方改革や病院経営に貢献していくため，医師でなくてもできることはできる限りドクターズクラークにタスクシフトできるよう体制を整えていきます。

左から小林先生，天野哲也副院長

ディスカッションの様子

臨床研修指導医のための教育ワークショップ開催

令和６年11月15日（金）・16日（土）に大学本館711特別講義室において，19回目となる臨床研修指導医のための教育ワークショップ（WS）が開催されました。厚生労働省監督の下で開催されたこのWSには，院内から20名，学外から6名の計26名が参加しました。

卒後臨床研修センターの中野正吾センター長を始め，医学教育センターの伴信太郎特命教育教授及び早稲田勝久教授を中心とした運営陣に加え，学外からは豊川青山病院の松井俊和院長をタスクフォースとしてお迎えし，「研修医にとって良い指導医とは」をテーマとして２日間に亘りグループディスカッション及びレクチャーが行われました。

受講者からは，「色々な年代の医師が交流して意見交換や議論ができ，各診療科や指導医側ででき得る具体的な改善点が見えた良い機会だった。」，「今回学んだコミュニケーション方法を用いて，研修医とより良い信頼関係を結んでいきたい。」などの意見がありました。

参加者による集合写真

このWSを受講した指導医を核に，更なる臨床研修の充実が期待されています。

医療安全推進週間
安全を高める患者の参加～対話が深める互いの理解～

厚生労働省は，11月25日（いい医療に向かってGO）を含む１週間を「医療安全推進週間」と定めています。本院ではこの推進週間の取り組みとして，令和６年11月25日（月）から27日（水）まで「安全を高める患者の参加～対話が深める互いの理解～」をテーマとした患者さんの医療参加を促進するイベントが実施されました。

イベントでは特設ブースを設け，患者さんに医療へ積極的に参加していただけるよう，標語入りポケットティッシュ，「安全な医療を受けるためにご協力いただきたいこと」をまとめた10項目のリーフレットなどの配布や，「病院内での対話」をテーマとした職員作句の川柳を展示し，お気に入りの川柳に投票していただきました。

また，患者さんに対し，受診や検査等の際にフルネームを名乗ったかどうかの聞き取り調査をしたところ，77％しか名乗っておらず，「名前を聞かれなかったから名乗っていない。」などのご意見もいただきました。患者さんとの対話を深めるため，教職員からの声かけや雰囲気作りの重要性を改めて知ることができました。

ポケットティッシュに差し込んだ医療参加促進標語（左）
「安全な医療を受けていただくためにご協力いただきたいこと」リーフレット（中央）
人気だった川柳（右）

院内助産／助産師外来「るる」開設

本院周産期母子医療センターでは，令和７年１月から院内助産／助産師外来「るる」が開設されました。院内助産／助産師外来とは，助産師が中心になって自然分娩の妊娠期から出産後約１か月までをサポートするシステムです。

名称の「るる」には，フランス語で「私の可愛い子」，「愛しい子」，ドイツ語で「大切な」，ハワイ語で「穏やか」という意味があります。本院「るる」において，妊婦さんとご家族が，赤ちゃんを愛おしい，産んで良かったと思えるように，大切な新しい命とご家族を温かく見守って包み込むような気持ちで支援を行います。具体的な「るる」の魅力としては，ゆったりとした雰囲気の中，自然な出産を一緒に進めていくことができ，異常が起こった場合には，周産期母子医療センター内で連携し，速やかに医療介入することで安心・安全な出産を行うことができます。

助産師の役割拡大により，医療のタスク・シフト／シェアだけでなく，助産師のやりがい，周産期ケアの質向上になることを期待しています。赤ちゃんたちが愛されて幸せに，健やかに育っていくようスタッフが心を込めて患者さんと向き合います。

看護機能連携ネットワーク実務検討会開催

令和６年11月13日（水）に第５回，12月11日（水）に第６回の看護機能連携ネットワーク実務検討会がZoom併用にて開催されました。本検討会は，令和２年度から開始した看護機能連携ネットワーク加入の15病院及び長久手市，訪問看護ステーション等の看護師が集まり，地域全体の看護の質向上のために学習する会で，これまでに６回開催されました。

第５回は「ACP（アドバンス・ケア・プランニング：意思決定支援）」，第６回は「身体拘束最小化」をテーマとして，講演，事例報告が行われました。各回とも現地参加，オンライン参加，オンデマンド参加を含め100名以上の看護師が参加しました。また，第６回は身体拘束最小化に関連するグッズ展示が行われ，多くの参加者が興味深く体験していました。

検討会に参加する様子

身体拘束最小化関連グッズ体験

受講後のアンケートでは，「医療者を始めとして患者さん，地域住民の方にACPを広げていくことの重要性が分かった。」，「身体拘束を最小にしていくためには，患者さんの背景，病態を十分に理解し，入院中は『快』の刺激を与えることが必要と分かった。」，「生活リズムを整えることなど個別性を活かしたケア介入が重要であると分かった。」などの感想が聞かれました。

ナーシングフェスタ2024開催

ナーシングフェスタは，「看護の楽しさ，素晴らしさを分かち合うお祭りをしよう！」を趣旨に，令和元年度から看護研究発表会の新たな形としてスタートしました。６回目となる今年度は，令和６年12月14日（土）午前９時から「看護の未来を切り開く～リスキリング，学びを実践へ～」をテーマとして開催されました。

研究発表では，大学本館たちばなホールにおいて，若杉里実看護学部長による「働く喜びを感じていますか！見つめてみようあなたのキャリアデザイン」をテーマとした特別講演のほか，15演題の看護研究発表がありました。

また，大学本館201 ～ 205講義室に企画ブースを設け，医療チーム，専門・認定看護師，特定行為看護師による体験型企画，愛すまいるによる企業展示が行われ，300名近い参加がありました。今回のナーシングフェスタでは，各ブースをスタンプラリーで回るよう企画し，大盛況に終わりました。

参加者からは，「他部署の取り組みを自部署に取り入れたい。」，「業務改善の参考になり，自部署でも実施できる。」，「企画ブースで体験しながら学ぶことができた。」などの意見が多く聞かれました。アンケートでは，約90%の参加者から「学びを得ることができた。」との回答があり，ナーシングフェスタのテーマであった「リスキリング，学びを実践へ」を実現することができました。

看護部と看護補助員によるランチ懇親会開催

令和７年１月21日（火）から30日（木）まで，アメニティ棟（立石プラザ）３階において，看護部と看護補助員によるランチ懇親会が開催されました。本懇親会は，今年度初の試みとして株式会社タスクフォース及び日美株式会社から派遣される看護補助者に対し，日頃の労いとともに生の声を聞くことで今後の業務改善に繋げることを目的に看護部と診療支援課が合同で企画したものです。多くの看護補助者が参加できるように開催時間をランチタイムとし，約100名が参加しました。

井上看護部長による説明

懇親会の様子

初めに，看護部の井上里恵看護部長から，看護チームの一員として日々頑張って働いている看護補助者へ労いの言葉と，「特定機能病院の役割」，「看護の理念」，「大切にしている看護」について説明がありました。その後，美味しいお弁当を食べながら，業務で困っていることをざっくばらんに意見交換することで，親睦を深めました。患者数，搬送件数の増加に伴い看護補助者からは，「エレベーターの待ち時間やお迎えに時間が掛かり患者さんを待たせてしまう。」，「患者さんの退院後，すぐに入院の患者さんが来る。患者さんをラウンジで待たせてしまい大丈夫か。」など，忙しい業務の中でも患者さんの視点に立って業務を行う姿が伺えました。また，清掃業務等についての意見では，患者さんの療養環境について考えながら業務を行っていることが伺え，看護チームの一員としての誇りが感じられました。

今後は，今回のランチ懇親会で出た多くの意見を基に病院内で改善を実施し，患者さんへのサービス向上に繋げるとともに，看護補助者にとって働きやすい職場環境になるよう取り組んで参ります。

第１回看護師特定行為研修指導者講習実施

令和６年12月１日（日）にシミュレーションセンターにおいて，本院看護師特定行為研修センター主催の第１回看護師特定行為研修指導者講習が実施されました。当日は，学内外から医師，看護管理者，看護学部教員，研修指導者及び特定行為研修修了者など30名が参加しました。

本講習は，厚生労働省の助成を受けて，国が推進する特定行為研修をより充実させ，特定行為の研修指導体制を確立するために，特定行為研修制度の趣旨を理解し，技能教育などの指導方法を身に付け，他施設の指導者と情報交換することを目的に，本院で初めて実施されました。

講習では，看護師の特定行為に係る研修制度の概要及び特定行為研修を円滑に進めていくための課題と対応策について，講義及びグループワーク，ロールプレイを通して学びました。参加者からは，「組織の体制の重要性を改めて感じた。」，「自施設の看護師特定行為の活動の普及に活かしたい。」などの感想がありました。

本講習は令和６年度中に第２回を実施する予定です。特定行為研修において指導者として携わる予定や可能性がある医師，歯科医師，薬剤師及び看護師等の多くの医療関係者の参加をお待ちしています。

グループワークを行う様子

ロールプレイ後の発表

令和６年度第１回看護管理者トピックス研修「Excel学習会」開催

令和６年11月13日（水）午後２時から大学本館５階マルチメディア教室において，Excel学習会が開催されました。

看護部では，看護師長・主任を対象として年１～２回のトピックス研修を開催しています。今回は，管理業務の作業効率を高めるためExcel学習会の第１弾として，表の作成及び関数の使い方，グラフ作成などの初級編を企画し，看護師長28名，主任57名のほか，希望者４名が参加しました。

総合学術情報センター（ICT支援部門）の細田尚孝課長を講師として，データの入力方法及び書式設定など，基本的な操作のほか，普段使い慣れていない数式入力や統計処理なども学びました。演習では２名のサポーターによるきめ細やかな対応で，タイムリーに質問することができ，短い時間でしたが充実した研修となりました。

また，研修後のアンケート結果では，大変役に立った（49%），役に立った（50%）との回答があり，「看護研究に活用できる。」，「会議資料の作成に活用できる。」，「使いこなせるように復習していきたい。」などの声が聞かれ，満足度の高い研修となりました。

小児科病棟クリスマス会
☆病室にサンタクロースがやってきた☆

令和６年12月19日（木）・20日（金）午後３時から８Ａ病棟プレイルームにおいて，小児科医局の協力の下，クリスマス会が行われました。

当日は，スタッフによるピアノ演奏とともに，子供たちと楽しくクリスマスソングを歌いました。サンタクロースとトナカイから，子供たち一人ひとりにプレゼントが手渡され，プレゼントを手にした子供たちは満面の笑みを浮かべていました。トナカイとのじゃんけん大会では，両手から零れ落ちるほどのお菓子を抱えて笑い合う様子も見られ，ご家族の方々にとっても楽しい時間を過ごすことができたようです。

サンタクロースからのプレゼント

トナカイとのじゃんけん大会

岡崎３病院集合！糖尿病予防イベント開催
～健康なカラダづくりin岡崎げんき館～

令和６年11月10日（日）岡崎市の岡崎げんき館において，岡崎市民病院，藤田医科大学岡崎医療センター，愛知医科大学メディカルセンターの３病院が集合し，「岡崎３病院集合！糖尿病予防イベント」が開催されました。

昨年に続き２回目の開催となる今回は，メディカルセンターの加藤義郎副院長（糖尿病内科・教授(特任)）が中心となって準備が進められ，「メディカルセンター糖尿病療養支援チーム」のメンバー 13名が参加しました。

会場には血糖測定，健康相談，栄養相談，筋力測定，フットケアなど七つのブースが設けられ，来場者一人ひとりに対して糖尿病に関する指導や相談が行われました。また，糖尿病専門医による講演や理学療法士による健康体操も実施され，充実した内容となりました。

メディカルセンターでは，今後も地域医療機関と協力し，地域住民への糖尿病予防，治療，療養に関する啓発活動を積極的に行って参ります。

３病院での合同写真

健康体操の様子

眼科クリニックMiRAI市民公開講座開催

令和６年12月７日（土）午後２時から，メルパルク名古屋において，眼科クリニックMiRAIの市民公開講座「眼の充血とモヤ，これってぶとう膜炎？ぶどう膜炎の症状と原因について知ろう」が開催され，45名が参加しました。近視進行抑制寄附講座の柴田藍助教を講師として，柴田助教の専門分野であるぶどう膜炎の症状及び原因，早期発見の重要性について分かりやすく解説いただきました。

柴田助教による講演の様子

具体的な事例及び日常生活に役立つアドバイスに対し，参加者はスライドや資料を熱心に読み，真剣な表情で耳を傾けるなど，ぶどう膜炎への関心の高さがうかがえました。

眼科クリニックMiRAIでは，偶数月の第１土曜日に，目に関する病気の講演会を定期的に開催しており，次回令和７年２月８日（土）に開催予定の市民公開講座では，眼科学講座の馬場圭太助教から「どうする？白内障」について解説していただきます。

眼科クリニックMiRAIでは，今後も地域の皆さまの健康啓発活動を積極的に行っていく予定です。

愛知医大サービス株式会社トピックス CAFÉ de CRIÉから小児科病棟へクリスマスプレゼント

愛知医大サービス株式会社では，本学・本院において，店舗等のサービス施設を運営しています。施設の中にはカフェチェーン「CAFÉ de CRIÉ（カフェ・ド・クリエ）」があり，同店を経営するC-United株式会社では，毎年，入院中の子どもたちへクリスマスプレゼントを届ける企画が行われています。

今年もサンタクロースに扮したCAFÉ de CRIÉ愛知医科大学病院店の店長から，クリスマスカードを添えたクリスマスプレゼント（色とりどりの可愛いおもちゃ及びタオルなど）が8A小児科病棟へ届けられました。本来であれば直接子どもたちにクリスマスプレゼントを手渡ししたいところですが，新型コロナウイルス感染症等の対策のため，後日開催された小児科病棟クリスマス会において，サンタクロースやトナカイに扮した小児科病棟のスタッフから子どもたちへプレゼントされました。

小児科病棟へプレゼントを届けるサンタクロース

毎年，プレゼントを受け取った子どもたちは目を輝かせてとても喜んでくれるので，病棟スタッフも楽しみにしているそうです。入院中の子どもたちにとって楽しいクリスマスのひと時が過ごせたことと思います。

災害医療研究センター　津田 雅庸教授「precio」掲載

災害医療研究センターの津田雅庸教授による，災害を見据え，ひとりでも多くの命を救える備えについてのインタビュー記事が「precio（プレシオ）」に掲載されました。「precio」は発行エリア内に勤務する医師及びその家族を対象として，病院等に配布される医療者向けの雑誌です。

津田教授は令和６年能登半島地震において，愛知県のDMAT（災害派遣医療チーム）として派遣されました。災害医療の取り組みであるDMAT，EMIS（災害救急医療情報システム），ドクターヘリを発足する契機の一つが阪神・淡路大震災と言われており，津田教授自身の阪神・淡路大震災での体験を振り返り，いち早く被災地へ向かうための体制が重要と語られました。

津田教授からは，「これからも愛知医科大学として災害医療に貢献できるよう取り組んで参ります。」との感想がありました。

循環器内科　鈴木 航助教　第35回日本心血管画像動態学会 Young Investigator Award最優秀賞受賞

循環器内科の鈴木航助教【写真】が，令和７年１月17日（金）･18日（土）に名古屋コンベンションホールで開催された第35回日本心血管画像動態学会において，Young Investigator Award最優秀賞を受賞しました。

この賞は，鈴木助教の発表演題「大動脈弁狭窄症疾患における収縮期冠動脈逆行性血流の臨床的意義の検討」が，循環器領域における画像動態学の発展に大きく寄与するものとして評価されたものです。

受賞した鈴木助教からは，「この度は，歴史ある日本心血管画像動態学会から名誉ある賞を頂き，大変光栄に存じます。内科学講座（循環器内科）の天野哲也教授を始め，皆さま方のご指導とご協力に厚く御礼申し上げます。引き続き微力ながら本学の発展に貢献できますよう精進して参ります。」との感想がありました。

解剖学講座　有村 和人助手　認定一級解剖技術者資格取得

解剖学講座の有村和人助手【写真】が，令和５年12月16日（土）に一般社団法人日本解剖学会が発行する認定一級解剖技術者資格を取得しました。

この資格は，解剖用死体の処置並びに肉眼標本作製業務に３年以上従事して二級技術者の認定を受けた後，２年以上同種業務に従事し，筆記試験，口頭試問，実地試験に合格した者に与えられるものです。

受賞した有村助手からは，「献体業務に従事してきた中で長く受験する機会を逸していました。認定試験に合格でき，先輩方にご指導いただいたことが身に付いていることを確認できました。ありがとうございました。献体業務のノウハウをより良く伝えられるように勤めたいと思います。」との感想がありました。

中央放射線部　大澤充晴主任
日本放射線技術学会中部支部　奨励賞（線量管理分野）受賞

中央放射線部の大澤充晴主任【写真】が，令和６年12月７日（土）・８日（日）に，岐阜市のじゅうろくプラザで開催された第16回中部放射線医療技術学術大会において，日本放射線技術学会中部支部奨励賞（線量管理分野）を受賞しました。

この賞は，大澤主任が線量管理に関する数々の研究成果を発表し，線量管理技術の発展普及並びに会員の研究意識の向上に大きく貢献したものとして同学会において高く評価されたものです。

受賞した大澤主任からは,「この度は名誉ある『奨励賞』をいただき，大変光栄に存じます。これも一重に多くの先生方のご協力及びご指導のおかげと深く感謝しております。今後も，なお一層精進していく所存でございます。今後ともご指導，ご鞭撻のほど，よろしくお願い致します。」との感想がありました。

中央放射線部　早川祐樹主任
第16回中部放射線医療技術学術大会　学術奨励賞受賞

中央放射線部の早川祐樹主任【写真】が，令和６年12月７日（土）・８日（日）に，岐阜市のじゅうろくプラザで開催された第16回中部放射線医療技術学術大会において，学術奨励賞を受賞しました。

この賞は，早川主任の発表演題「造影剤減量を目的とした超解像Deep Learning Reconstruction肝Dynamic 低管電圧撮影の試み」が診療放射線技術の向上発達に寄与するところ顕著なものがあると高く評価されたものです。

受賞した早川主任からは，「昨年，本院に導入されたCanon社製CT装置の性能を最大限に活かし，腎機能低下患者の腹部検査では，造影剤量を最大50％減量した撮影プロトコルを策定しました。今後も患者さんに寄り添う優しい検査ができるように努めて参ります。」との感想がありました。

学　術　振　興

学　位　授　与

◆大学院医学研究科

アルビー　シャヒダ
学位授与番号　甲688号
学位授与年月日　令和６年12月５日
論文題目：「Versican maintains the homeostasis of adipose tissues and regulates energy metabolism（バーシカンは脂肪組織の恒常性を維持し，エネルギー代謝を制御する）」

王　聡
学位授与番号　甲689号
学位授与年月日　令和６年12月５日
論文題目：「Catecholamines Attenuate LPS-Induced Inflammation through β2 Adrenergic Receptor Activation- and PKA Phosphorylation -Mediated TLR4 Downregulation in Macrophages（マクロファージにおいてカテコラミンはβ2アドレナリン受容体活性化とＰＫＡリン酸化を介してＴＬＲ4の発現を抑制し，ＬＰＳによって誘導された炎症反応を軽減する）」

ヌスラット　ジャハン
学位授与番号　甲690号
学位授与年月日　令和７年１月16日
論文題目：「Role of versican in extracellular matrix formation: analysis in 3D culture（細胞外マトリックス形成におけるバーシカンの役割：三次元培養下の解析）」

板谷　和也
学位授与番号　甲691号
学位授与年月日　令和７年１月16日
論文題目：「Distribution and antimicrobial susceptibility pattern of CTX-M-type extended-spectrum β-lactamase-producing *Escherichia coli* isolated in Chubu region, Japan（日本の中部地方で分離されたCTX-M型ESBL産生大腸菌の分布と感受性についての検討）」

河合　美由花
学位授与番号　乙435号
学位授与年月日　令和６年11月７日
論文題目：「Neuroretinal dysfunction revealed by a flicker electroretinogram correlated with peripheral nerve dysfunction and parameters of atherosclerosis in patients with diabetes（フリッカー網膜電図により示された神経網膜機能障害は，糖尿病患者の末梢神経機能障害およびアテローム性動脈硬化症のパラメータと相関する）」

佐竹　晃徳
学位授与番号　乙436号
学位授与年月日　令和６年12月５日
論文題目：「Clinical Outcomes and Predictors of All-Cause Mortality After Complex High-Risk and Indicated Revascularization Using Percutaneous Coronary Intervention（高リスク患者に対する経皮的冠動脈形成術後の臨床結果と全死亡の予測因子）」

田中　真美
学位授与番号　乙437号
学位授与年月日　令和７年１月16日
論文題目：「NIRO200NX:Reliable Monitoring System for Buried Deep Inferior Epigastric Perforator Flap（近赤外線酸素モニタNIRO200NXの遊離組織移植術後の血流モニタリングにおける有用性）」

研究助成等採択者

◇公益財団法人先進医薬研究振興財団

「精神薬療分野」一般助成

・氏　　名　宮田淳（精神科学講座・教授）

研究題目　MRIと脳波による統合失調症の異常サリエンスとE／Iバランスの病態関連の解明

助成金額　1,000,000円

◇公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団

ヘルスリサーチ研究助成

・氏　　名　宮原弘明（加齢医科学研究所・准教授）

研究題目　多角的解析による乳幼児の予期せぬ突然死（SUDI）の原因究明

助成金額　1,220,000円

◇公益財団法人上原記念生命科学財団

研究推進特別奨励金

・氏　　名　丸山健太（薬理学講座・教授）

研究題目　痛覚神経系による中枢を標的とした新しい免疫寛容メカニズムの解明

助成金額　4,000,000円

外国人研究員のご紹介

本学において研修するため，外国人研究員として来学された方をご紹介致します。（敬称略）

ムハンマド　アブマンハル
Muhammad Abumanhal

国　　籍：イスラエル

現　　職：テルアビブ･ソウラスキー・メディカルセンター，眼科医師

受入講座：眼科学講座

受入期間：R6.12.16 ～ R7.12.7（12か月）

研究課題：上眼瞼における血管・リンパ管の解剖特性の解明と，手術後の組織腫脹を最小限に抑える手術方法の開発

本学講座等の主催による学会等

【学会名】	【開催日】	【会長等】
・第６回日本緩和医療学会東海･北陸支部学術大会	令和６年11月16日（土）	森　　直治
・第13回日本公衆衛生看護学会学術集会	令和７年１月４日（土）･５（日）	坂本真理子
・第35回日本心血管画像動態学会	令和７年１月17日（金）･18日（土）	天野　哲也

第６回日本緩和医療学会東海・北陸支部学術大会

緩和ケアセンター・教授　森　直治

令和６年11月16日（土）に本学において，第６回日本緩和医療学会東海・北陸支部学術大会を「アンメット・ケア・ニーズに寄り添う」をテーマとして開催致しました。【写真】大学本館たちばなホールをメイン会場とし,「悪液質」及び「食の苦悩」をテーマとしたシンポジウムなど，上級セッションが行われました。また，一般演題42題は三つの講義室に分けて発表され，各会場で活発な討論が繰り広げられました。更に,「難治性疼痛」及び「せん妄」など，緩和医療の重要課題に焦点を当てた教育講演や，専門家と直接意見交換ができる「ミート・ザ・エキスパート」セッションを実施し，多くの参加者から好評価をいただきました。

これまで，いくつかの学術集会を名古屋駅周辺で開催して参りましたが，今回，本学を会場として開催するという念願が叶いました。本学へのアクセスの利便性について懸念がありましたが，藤が丘駅からシャトルバスを運行することで，約300名の参加者をお迎えすることができました。本学の美しい環境や充実した設備について，学会理事，代議員及び参加者の皆さまから高い評価をいただき，大変嬉しく思っております。

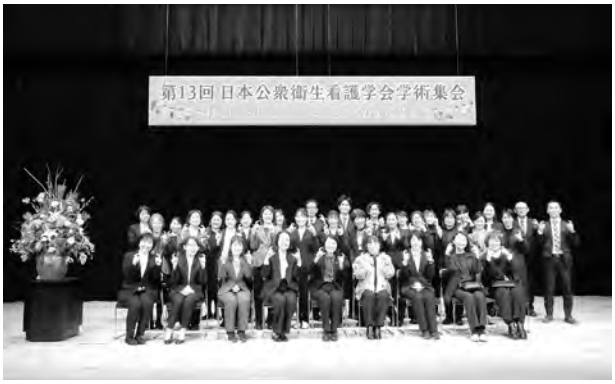
本大会が，東海・北陸地域における緩和医療の実践と研究を結びつける貴重な場となり，成果を挙げられたことに心から感謝しております。本大会の開催に当たり，大学施設をご提供いただいた大学関係者の皆さま，並びに一般財団法人愛知医科大学愛恵会のご支援に，改めて心より御礼申し上げます。

第13回日本公衆衛生看護学会学術集会

地域・在宅看護学・教授　坂本 真理子

令和７年１月４日（土）・５日（日）にウインクあいちにおいて，第13回日本公衆衛生看護学会学術集会が開催されました。日本公衆衛生看護学会は，行政や産業分野などで活動する保健師及び公衆衛生看護分野における教育・研究者らを会員とし，人々の健康の保持増進に寄与できる保健師活動の発展と，活動基盤である公衆衛生看護学を学問として構築することを目的として設置された学会です。

学術集会は今回初めて愛知県で開催され，お正月



学術集会終了後の実行委員との写真

期間であったにも関わらず，全国から1,200人を超える参加者が会場へお越しくださいました。開会式には愛知県知事，名古屋市長，厚生労働省職員，日本看護協会常任理事，本学祖父江元 理事長を始めとする来賓の方々をお迎えし，ライブ配信やオンデマンド配信を含め，参加登録者数は1,800人近くに上りました。

本学術集会のテーマは「多様なパートナーとともに未来を創る公衆衛生看護」であり，多様で複雑な健康課題に立ち向かうために，地域住民や当事者，多様なパートナーたちと協働して，いかに新しい未来を創っていくかを考える機会と致しました。幅広い分野で活躍する研究者や実践家による講演，シンポジウム，セミナー，ワークショップ，一般演題発表など，どの会場も熱気に溢れていました。

本学術集会の開催では，多くの皆さまにお世話になりました。年末年始に関わらず，実行委員やボランティアとして学術集会の運営にご協力いただきました大勢の皆さまにも厚く御礼申し上げます。最後に，ご協力いただきました全ての皆さまへ，そして本学術集会の開催に当たり，ご支援を賜りました一般財団法人愛知医科大学愛恵会に，この場をお借りして心より御礼申し上げます。

坂本真理子学術集会長の講演

第35回日本心血管画像動態学会

内科学講座（循環器内科）・教授　天野 哲也

令和７年1月17日（金）・18日（土）に名古屋コンベンションホールにおいて，第35回日本心血管画像動態学会／FRIENDS Live 2025が盛大に開催されました。本年は日本心血管画像動態学会とFRIENDS Liveとの合同開催という新たな試みが行われ，心血管画像診断と冠循環機能的診断の両分野を横断的に結びつけることで，より包括的かつ実践的な知見の共有が実現しました。大会長として，多くの皆さまにご参加いただけたことを心より感謝申し上げます。

本年のテーマは「Next Chapter：Imaging　×　Physiologyが生みだす新たな世界」とし，心血管領域における画像診断と生理学的評価の融合による新たな展開を探求しました。この融合により，診断から治療までの一貫した理解が深まり，臨床現場での実践力向上に直結する学びの場となりました。

特に注目を集めたのは，OCTマスターコースとCTマスターコースです。OCTマスターコースでは，光干渉断層法（OCT）を用いた冠動脈病変の詳細な評価や治療戦略の最適化に関する最新知見が共有され，多くの参加者が熱心に議論を交わしました。CTマスターコースでは，欧米で注目されている新しい冠動脈治療戦略である「CT-guided PCI」を学ぶ日本初のコースが設けられ，インターベンション医に向けた実践的なレクチャーや症例検討が行われました。

また，若手研究者の育成にも力を入れ，優秀演題賞を設けることで，次世代の心血管画像診断及び治療分野を担う人材の発掘と支援を行いました。学際的な交流の場としても非常に有意義な学会となり，参加者同士の活発な意見交換がみられました。

本学会の成功は，参加者の皆さまを始め，関係者の皆さまのご協力の賜物であることを改めて強調させていただきます。今後も本学会が心血管画像診断と治療の発展に寄与し，臨床現場への貢献を果たせるよう努力して参ります。

最後に，本学会の開催に当たり，一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援をいただきましたこと，この場を借りて厚く御礼申し上げます。

規　則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

給与規程の一部改正等

令和６年人事院勧告により国家公務員俸給表が改められたことに伴い，本学の本給表等を改めるため，以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和６年12月２日

【一部改正】

・学校法人愛知医科大学給与規程

・助教（専修医）の給与等について（理事長裁定）

施設委員会規程の一部改正等

固定資産の管理等について審議する施設委員会及び施設管理委員会の運営を実態に合わせるため，以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和７年１月１日

【一部改正】

・学校法人愛知医科大学施設委員会規程

【廃止】

・施設管理委員会設置要綱

障がいのある学生に対する支援に関する規程の制定

障害者差別解消法の改正により義務化された合理的配慮の提供に関し，本学での取扱い等について必要な事項を整備するため，愛知医科大学における障がいのある学生に対する支援に関する規程が制定されました。

施行日は令和７年１月１日

身体的拘束最小化チーム規程の制定

令和６年度診療報酬改定において定められた組織的に身体的拘束を最小化する体制の整備に対応するため，愛知医科大学病院身体的拘束最小化チーム規程が制定されました。

施行日は令和７年２月１日

感染予防対策委員会規程の一部改正

愛知医科大学病院感染予防対策委員会規程の一部が改正され，委員会の運営を実態に合わせるために必要な事項が整備されました。

施行日は令和７年２月１日

特定放射性同位元素防護規程の一部改正

愛知医科大学病院特定放射性同位元素防護規程の一部が改正され，原子力規制委員会からの指摘に対応するために必要な事項が整備されました。

施行日は令和６年12月１日

医薬品製造販売後調査実施要綱の一部改正等

医薬品の製造販売後調査に関する省令名が改正されたことに対応するため，以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和７年１月１日

【一部改正】

・愛知医科大学病院医薬品製造販売後調査実施要綱

・愛知医科大学眼科クリニックＭｉＲＡＩ医薬品製造販売後調査実施要綱

シミュレーションセンター利用規程の一部改正

愛知医科大学医学部シミュレーションセンター利用規程の一部が改正され，センターの利用時間が改められました。

施行日は令和６年12月１日

X　　Instagram

愛知医科大学公式SNS（@aichi_med_u）
では大学・病院の最新情報を発信中です。

編集後記

☆　毎年，本院正面玄関を飾る門松（表紙）は，ご来院の皆さまに季節を感じていただけるよう，新年の縁起を願って飾られています。本学・本院の各事業には様々な部署が携わっており，門松の設置は一般財団法人愛知医科大学愛恵会からの助成金を受けて行われています。教職員はもとより，様々な方に支えられて実施される各事業への理解が深まり，お互いを思いやる心が更に育まれることを願っています。

【総務広報課】

学報の送付を辞退される方は，総務広報課までご連絡ください。

愛知医科大学学報　第177号
発行年月日　令和７年１月31日
発　　行　学校法人　愛知医科大学
発 行 人　祖父江　　元
編 集 人　羽根田　雅巳
連 絡 先　〒480-1195
愛知県長久手市岩作雁又１番地１
愛知医科大学事務局総務部総務広報課
☎（0561）６２－３３１１（代表）
☎（0561）６２－１０６３（直通）